一 本簿册ハ本心得第七十三條ニ依リ調製スヘシ
永久保存

二 戸口調査簿
本簿册ハ戸口調査規則ニ依リ調製スヘシ
永久保存

三 捜査簿
本簿册ハ本心得第七十九條ニ依リ調製スヘシ
永久保存

四 戸口調査一覧表 一年保存

五 警察其他臨檢視察一覧簿(第一樣式) 一年保存
(四、五、合册)
以上受持區巡査毎ニ備フルモノトス

六 勤務日誌 五年保存
本簿册ハ巡査配置及勤務規則竝ニ本心得第八十條ニ依リ調製スヘシ

七 雑纂 一年保存
本簿册ハ上申往復其他一時限ノ文書ヲ編綴スヘシ

八 縣公報 永久保存

九 警察報 永久保存

十 品觸 十年保存
發見セシモノハ朱抹スヘシ

十一 受訓簿(第二樣式) 一年保存
一 監督者巡視ニ際シ注意若クハ指示シタルトキハ其要旨ヲ記載スヘシ
二 受持區巡査ハ監督者ノ注意若クハ指示ニ對シ相當處置シ其事實ヲ記載認印スヘシ

三 受持區巡査執務上ニ付テ監督者ノ指揮ヲ乞ハントスルトキハ其旨ヲ記載スヘシ
四 本簿中口別ケヲナシ署長ノ訓示ヲ記載シ又ハ添付シ置クヘシ
五 本簿ハ監督者及監督者ノ指揮アル場合ノ外他人ニ披見セシムヘカラス (大正六年三月縣訓令第七〇號ヲ以テ本號追加)

十二 例規 永久保存
本簿册ハ執務上例規若ハ參照トナルヘキモノヲ編綴スヘシ

十三 備品目錄 永久保存

十四 簿册目錄 永久保存
(十三、十四、合册)
以上派出所及駐在所毎ニ備フルモノトス

十五 (削除)

十六 郵便切手受拂簿 永久保存

十七 金品送付簿 永久保存
但單ニ受領證中ノ紙片ナルトキハ本簿册ニ貼付シ置クヘシ
以上派出所(警察官署所在地外)駐在所毎ニ備フルモノトス

第八十二條 學校内其他ニ於ケル御影奉置ノ場所ハ常ニ詳知シ置クヘシ

第八十三條 警邏ハ可成其中央ヲ通行人ニ讓リ夜間ハ家屋ニ沿フテ巡行スヘシ

第八十四條 署所内勤務中ハ書類ヲ整理シ又ハ上官ノ命令ニ依リ諸般ノ事務ニ服スヘシ

第八十五條 書面ヲ要スヘキ人民ノ願届ニシテ執筆ニ堪エサル者アルトキハ其事項ヲ綫取シ本人ニ讀聞カセ署名捺印セシムヘシ

第八十六條　受持區外ト雖トモ所轄署ヲ異ニセサル願届ハ取次クヘシ
所轄署ヲ異ニスト雖トモ保安上擱キ難キ事件ニ付テモ亦同シ

第一款　署在地

第八十七條　派出所ニ於テハ輕易ナル願届ヲ取次實査ヲ要スヘキモノハ相當ノ手續ヲナシ其報告書ヲ添ヘ其他ハ其書面ノ餘白ニ認印シ所轄署長ニ送付スヘシ

其職権内ニ係ルモノハ相當ノ處置ヲナスヘシ

第八十八條　見張勤務中ハ派出所ヨリ見通シ得ル街路ニ限リ所外三十歩以内ヲ巡行スルコトヲ得

第八十九條　見張勤務中ハ派出所入口ノ戸ヲ開放シ置クヘシ
但降雨雪ノ時ハ閉鎖スルモ妨ケナシ

第九十條　派出所ニ於テハ休憩室ニアル時ノ外喫食スヘカラス

第九十一條　見張勤務中ハ公用書類ニ限リ閲覧又ハ筆記スルコトヲ得

第九十二條　派出所ニ於テハ休憩中ト雖トモ公用書類ノ外閲覧又ハ筆記スヘカラス
但休憩室内ニ於テハ此限ニアラス

第九十三條　署所内ニ於テハ休憩ノ時ト雖モ發聲讀書シ又ハ討論ケ問數所爲アルヘカラス

第九十四條　派出所ニ於テハ休憩中ト雖トモ買物等ナスヘカラス

第九十五條　署所内ニ於テ休憩時間中ハ隨意休憩スルヲ得ヘキモ急遽事ニ應スルノ用意アルヲ要ス

第二款　署在地外

第九十六條　派出所駐在所ニハ本心得第八十七條ヲ適用ス

第九十七條　派出所駐在所巡査ニシテ同居ノ家族ナキ者ハ警邏出張等ニ際シ巡視官ノ來所及願届特使等ニ對スル取扱人ヲ定メ執務ノ支障ナカラシムヘシ

但取扱人ノ氏名ハ所轄署長ニ報告スヘシ

第九十八條　拾得物證據物件等ハ金品送付簿ニ記載シ速ニ所轄署長ニ送付スヘシ

第九十九條　派出所駐在所巡査職務上出張スルトキハ其行先ヲ勤務日誌ニ記載スヘシ

第百條　監視人出頭ノ際ハ認印ヲ與ヘ旅行中天災又ハ疾病ニ因リ滯留シタル場合ニ於テハ其證明ヲ付與スヘシ

第百一條　所轄署ヲ異ニスト雖トモ鄰接駐在所巡査トハ常ニ氣脈ヲ通シ事アルニ當リテ互ニ救援ヲナスヘシ

第二節　戸口調査

第百二條　戸口調査ニ付テ心得ヘキ法令左ノ如シ

宿泊屈其他ノ件　（明治三十二年七月内務省令第三十二號）
同　（同年七月内務省訓令第六百八十九號）
同　（同年八月岐阜縣訓令第百二十一號）
戸口調査規則　（明治三十四年二月岐阜縣訓令第七號）
戸口調査ノ件　（明治十五年四月岐阜縣丙號達）

第百三條　戸口調査ノ際ハ叮嚀ヲ旨トシ人民ノ迷惑セサル樣注意スヘカラス

第百四條　人民ノ性行貧富ノ如キハ戸口調査上直接聞糺スヘカラサルモノナレハ生計ノ狀況近鄰ノ交際竝ニ其風評及往來スル人物ノ種類ニ依リ監察スヘシ

第三節　臨檢

第百五條　營業臨檢ノ場合ニ於テ注意スヘキ事項左ノ如シ

一　奸詐不正ノ所爲ナキヤノコト

二　公衆ノ健康ヲ保持スル上ニ於テ支障ナキヤノコト

三 帳簿ノ記載方等法令ニ違ハサルヤノコト

第四節 群集雜沓

第百六條 群集雜沓ノ場所ニ於テハ喧嘩鬪毆等ノ虞アルヲ以テ特ニ注意スヘシ

第百七條 群集雜沓ノ場所ニ於テハ特ニ老幼婦女ニ注意ヲ加ヘ醉狂暴行及掏摸犯ナキヤニ注意スヘシ

第五節 傳染病

第百八條 人畜傳染病防遏ニ付テ心得ヘキ法令左ノ如シ

傳染病豫防法 （明治三十年三月法律第三十六號）

傳染病豫防法施行規則 （明治三十年五月內務省令第十一號）

汽車檢疫規則 （明治三十年七月內務省令第十九號）

傳染病豫防法施行細則 （明治三十一年四月岐阜縣令第三十八號）

傳染病豫防法施行手續 （明治三十一年四月岐阜縣訓令第四十四號）

清潔及消毒方法 （明治二十九年三月內務省令第十三號）

獸疫豫防法 （明治二十九年五月內務省令第十號）

獸疫豫防法施行細則 （明治三十一年一月農商務省令第一號）

獸疫豫防心得 （明治三十年二月農商務省告示第四號）

第百九條 家屋其他ノ清潔飮食物及其器具等ノ取締ニ付テハ常ニ注意スヘシ

注意スヘシ

第百十條 防疫ニ關スル營造物及其器具藥品ノ設備竝其機關ノ行動ニ注意シ隨時所轄署長ニ報告スヘシ

第百十一條 人畜傳染病流行ノ際ニ於テハ特ニ戶口調査ヲ嚴密ニシ患者及患畜ノ隱蔽ノコトナキヤニ注意スヘシ

第百十二條 人畜傳染病流行ノ際ハ左ノ各號ニ注意スヘシ

一 井泉厠圊芥溜等ノ掃除充分ナルヤノコト

二 患者及患畜ノ排泄物及之ニ汚染シタル物品等ヲ一定ノ場所外ニ埋却スルモノナキヤノコト

三 隔離及交通遮斷ノ規定ヲ犯ス者ナキヤノコト

第百十三條 傳染病患者及患畜アリタルトキハ直ニ隔離消毒等適當ノ處置ヲナスヘシ

第六節 警衛

第百十四條 警衛ノ際注意スヘキ要件左ノ如シ

一 御道筋附近ノ拜觀人チシテ不敬ノ所爲ナカラシムルコト

二 道路橋梁ノ破損防碍物ノ存在等御道筋ノ危險ヲ除去スルコト

三 御道筋附近ヲ清潔ナラシムルコト

四 精神病者白痴者傳染病者牛馬狂犬等通御又ハ通過ニ危害ヲ及ホスヘキ虞アル者ニ對シ相當措置スルコト

第百十五條 警衛線ニ在リテハ鳳輦其他ノ進行シ來ル方位ニ向ヒ公衆ノ前ニ側面シ專ラ視線ヲ公衆ニ注キ御通過後ニ於テモ同一ノ方向ヲ取リ嚴重ニ警戒スヘシ

第七節 出火場

第百十六條 出火ニ付テ心得ヘキ法令左ノ如シ

警護綱告示 （明治二十三年十月岐阜縣告示第七十九號）

第百十七條 出火アルヲ認知シタルトキハ火元ノ標札ヲ剝取リ若クハ其住所氏名ヲ摘記シ所轄署長ニ急報スヘシ

第百十八條 出火ノ際ハ先ツ意ヲ火防ニ注キ消防夫ノ集ルニ及ンテハ警護救援ニ從フヘシ

第百十九條 警護救援ニ服スル者ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 警部線內ニハ火防ニ關係アル者及警護線內ノ住民竝ニ其親族官公署學校病院會社等ニ直接關係アル者又ハ郵便電信配達夫ノ外出入ヲ制止スヘシ

二　警護線内ニ於テハ消防車及線内住民ノ貨財及郵便物ヲ運搬スルモノヲ除クノ外總テ車馬ノ交通ヲ制止スヘシ
三　線内住民ノ出入貨財ノ運搬及消防器具ノ運用等ニ付テハ最モ注意シテ自由ナラシムル事ニ努ムヘシ
四　老幼婦女及病者等ニシテ進退ノ自由ヲ得サル者ハ特ニ注意救護スヘシ
五　牛馬等ノ家畜ヲ放置シアル場合ニ於テハ直ニ牽キ出シ安全ノ場所ニ移スヘシ
六　家財ハ可成蒐集シテ搬出セシメ其貴重ナル物品ハ便宜助力スヘシ
七　搬出シタル家財ハ可成安全ノ場所ニ置カシメ且ツ看守人ヲ付セシムヘシ
八　危害切迫スルニ及ンテ仍ホ家財ノ蒐集ニ從事スル者アルトキハ速ニ其場ヲ去ラシムヘシ
九　家財ノ蒐集搬出等雜沓ノ場合ニ於テハ特ニ盜犯ヲ警戒スヘシ

第百二十條　官署學校等出火ノ場合ニ於テハ先ツ御影ヲ安全ノ場所ニ奉置スヘシ

第百二十一條　劇場寄席觀物場勸工場製造場旅人宿貸座敷貸席料理屋飲食店湯屋及學校病院寄宿舍其他常ニ多人數集合スル場所出火ノ節ハ其避難ニ付テ特ニ注意スヘシ

第百二十二條　官公署學校病院會社等近火ノ場合ニ於テハ其書類物品ノ搬出ニ付テ紛亂散逸ヲ警戒スヘシ

第百二十三條　船舶ニ出火アル場合ニ於テハ直ニ救助船ヲ出シ附近繫泊船ニ告知シテ消防ニ助力セシメ或ハ其場所ヲ移轉シテ延燒ヲ避ケシムル等相當ノ處置ヲナスヘシ

第百二十四條　假火ノ後ト雖トモ上官ノ命令アルニアラサレハ退散スヘカラス

第八節　水防

第百二十五條　水防ニ付テ心得ヘキ法令左ノ如シ

警察官水防概則　（明治二十七年六月岐阜縣警第二九七號）

第百二十六條　出水ノ徵アルトキハ豫メ沿岸人民ニ警告シ防護及避難ノ準備ヲナサシムヘシ

第百二十七條　出水ニ際シテハ堤防橋梁ヲ防護シ老幼婦女ヲ扶助シ特ニ溺者ヲ救助スルコトニ注意スヘシ

第百二十八條　堤防破壞シ若ハ破壞セントスル場所アルヲ認メタルトキハ便宜ノ場所ニ掲示スル等沿岸人民ニ周知セシムルコトニ注意スヘシ

第百二十九條　堤防破壞ノ場合ニ於テハ迅速ニ左ノ各號ニ從フヘシ

一　御影ヲ安全ノ場所ニ奉置スルコト
二　人命ノ救護ヲナスコト
三　財產ノ救護ヲナスコト

第百三十條　出水ノ爲橋梁流失等ノ場合ニ於テハ交通恢復ニ付相當注意スヘシ

第九節　興行場

第百三十一條　興行取締ニ付テ心得ヘキ法令左ノ如シ

諸興行及觀物場取締規則　（明治二十八年八月岐阜縣令第八十號）

第百三十二條　興行場ニ於テハ容儀ヲ正フシ其興行ノ法規ニ觸ルル場合ハ相當注意スヘキハ勿論仍ホ左ノ各號ノ注意ヲナスヘシ

一　定額以外ノ木戸錢席料其他ノ金錢ヲ貪ラサルヤノコト
二　客席ニ規定以外ノ人員ヲ收容セサルヤノコト
三　樂屋ニ觀客ヲ出入セシメサルヤノコト
四　樂屋浴場滿圍火鉢ノ置場及燈火等火災ヲ發スル虞ナキヤノコト
五　劇場構內ニ於ケル通路其他非常口等ニ支障ナキヤノコト
六　客席樂屋及厠圍等不潔ナラサルヤノコト

第百三十三條　觀客等相撲裸體ノ所爲アル者ハ稟ニ制止スヘシ

第百三十四條　觀客群集ノ場合ニ於テハ棧敷等崩壞ノ虞ナキヤニ注意スヘシ

第百三十五條　非常出火等ノ際ハ速ニ非常口ヲ開放セシメ観客退散ノ便ヲ與フヘシ

第十節　人命急變

第百三十六條　不慮ノ災害等凡テ人命ニ關スル危害ヲ認メタル場合ニ於テハ直ニ醫師ヲシテ治療セル等相當ノ處置ヲナスヘシ

第百三十七條　患者ノ取扱ハ極メテ鄭重ニナスヘキハ勿論最モ鎮靜ヲ要スヘキモノナレハ教授及看護ニ必要ナルモノノ外接近セシムヘカラス

第百三十八條　現場ニ於ケル器具藥品ノ散在及血痕ノ汚點等凡テ檢視上必要ノ事項ハ原狀ヲ變セサル樣注意スヘシ

第一號樣式

臨檢一覽表

古物商(イ)ノ部　(毎月何回以上)　何警察署何受持區

月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	何町何大字	氏名

備考　本表ハ一年分用フルニ足ル丈ケノモノトスヘシ

臨檢日ハアラビヤ文字ヲ以テ記入スヘシ例ヘハ二十八日ナレハ28ト記スカ如シ

第二號樣式

注意簿

何警察署巡査派出駐在所第何受持區

番號	事項

一　注意簿ニハ見出シヲ附スヘシ

二　注意簿ニハ左ノ索引ヲ附スヘシ

三　見出シハ索引ノ番號ニ依ルヘシ

（一） 受持區並警邏線路圖面警邏線路種別里程、警邏表配置場所
受持區並警邏線路圖面
警邏線路種別里程警邏表配置場所

種別	里程	警邏表配置	
		場所	戸主氏名

（二） 受持區ノ戸數人口（累年比較）

調査年月	戸數	人口

（三） 受持區ノ地目段別

田	畑	宅地	山林	其他	計

（四） 傳染病院傳染病隔離病舍並圖面

（五） 御獵場、禁獵區、禁漁區、銃砲禁止區域獵區、共同狩獵地、保安林、砂防法指定地ノ區域

種別	地域

（六） 官公署學校病院會社銀行市場ノ位置

署所名	位置

市場ニ付テハ開場定日ヲ附記スヘシ

（七） 祭事其他ノ慣例

場所	月日	事由	雜踏狀況	被害狀況	取締狀況

（八） 縣廳 所轄警察官署 近傍派出所 駐在所 名所 古跡ニ至ル里程

名稱	位置	里程

(九) 神社佛閣及教會堂社ノ位置

種別	位置

(十) 汽車 電車停車場 自動車 馬車 人力車駐車場及乘客船舶繫所ノ位置

種別	位置

賃銭表

汽車電車ノ賃銭表ハ省略スルコトヲ得

(十一) 汽車 電車 自動車 馬車 乘客船ノ發着時間

種別	時間	
	發	着

發着ノ場所毎ニ記載スヘシ

(十二) 帝國議會及縣郡市町村區會議員

種別	崇拜者ノ氏名黨派別	住所	氏名

(十三) 名望家及勢力家

種別	住所	氏名	生年月日

(十四) 有爵位帶勳效功者

爵位	勳等	住所	氏名	生年月日

(十五) 官吏 公吏 辯護士 公證人 執達吏 新聞雜誌記者及通信員

官職其他ノ種別	住所	氏名

（十六） 消防組役員　水防組役員　水害豫防組合役員　水利組合役員

種別	住所	氏名

（十七） 神官　僧侶　宣教師　傳導師

種別	住所	氏名

（十八） 在鄉軍人

徵集（編入）年月日	兵種官等	住所	氏名

（十九） 新聞雜誌讀者

種類	住所	氏名

（二十） 銃砲所有者

軍用非軍用ノ別	名稱	住所	氏名	生年月日

（二十一） 失跡所在不明者

種別	失跡宣告及所在不明トナリタル年月日	住所	氏名	生年月日

所在不明トナリシヨリ十五年ヲ經過シタルトキハ署長ノ決裁ヲ經テ削除スルコトヲ得

（二十二） 傳染病患者タリシ者

患者發病年月日	病名	住所	氏名	生年月日

患者治癒ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ署長ノ決裁ヲ經テ削除スルコトヲ得

（二十三） 前科者

罪名	刑名刑期	言渡年月日	裁判所名	犯數	住所	氏名	生年月日

（二十四）戶口調查規則第十六條該當者

| 件 | 諸興行 | 件 | 集會 | 件 | 雜踏 | 件 | 其他 | 件 | 計 | 件 | 戶締 | 件 | 干物 | 件 | 携帶品 | 件 | 火氣 | 件 | 其他 | 件 | 計 | 人 | 男 | 人 | 女 | 人 | 計 | 人 | 男 | 人 | 女 | 人 | 外國人 | 人 | 男 | 人 | 女 | 人 | 計 | 人 | 男 | 人 | 女 | 人 | 注意人 | 人 | 計 | 人 | 男 | 人 | 女 | 人 | 止宿人

大正　年　月　査察事故表　警察署　派出駐在所第　受持區

種別	現在數	規定度數	執行度數	注意度數
工場				
未監置精神病者				
監置精神病者				
氷雪採取製造販賣				
同卸賣				
同請賣				
同行商				
食肉販賣				
同行商				
清涼飲料水製造販賣				
同請賣				
醫師				
齒科醫師				
産婆				
看護婦				
鍼術灸術				
按摩術				
藥劑師				
藥種商				
製藥者				
賣藥營業				
同請賣				
賣藥部外品營業				
賣藥行商				
阿片卸賣				
理髮業				
傳染病院				
傳染病隔離病舍				
墓地				
火葬場				
獸醫				
蹄鐵工				
牛乳搾取販賣				
同請賣				
乳製品販賣				
劇毒物販賣				
トラホーム患者				
飲食物用器具營業				
化製場				
屠場				
病院				
胞衣産穢物取扱場				
癩患者				
料理屋				
飲食店				
藝妓				
酌婦				
雇女				
貸座敷				
娼妓				
仲居				
劇場				
假設劇場				
寄席				
假設寄席				
觀物場				
假設觀物場				
遊戲場				
旅人宿				
木賃宿				
下宿屋				
湯屋				
牛馬商				
甲種火藥類販賣業者				
銃砲製造修繕改造業者				
銃砲販賣業者				
火藥庫				
假貯藏所				
倉庫				
火藥類費消者				
拳銃短銃仕込銃仕込刀劍其他變裝ノ戎器携帶者				
發動機關				
汽罐汽機				

種別	現在數	規定度數	執行度數	注意度數
廣告物				
度量衡製造業者				
同販賣業者				
同修繕業者				
同使用者				
新聞雜誌販賣				
電氣事業者				
電動機				
瓦斯事業者				
漉入紙製造				
無盡業				
會員募集				
養育兒				
陸地測量標				
印版彫刻印刷業				
狩獵者				
威銃使用者				
有害鳥獵驅除				
保護鳥獵捕獲				
保護鳥飼養者				
煙火製造者				
緩燃導火線製造				
口入業				
碑表				
形像				
質屋				
古物商				
同行商				
同露店				
屑物行商				
代書業				
乘客船營業				
同船體				
同船夫				
人力車營業				
同挽子				
同車體				
同駐車場				
渡船營業				
同船禮				
同船夫				
橋梁				
乘合馬車營業				
同車體				
同馭車				
同馬區				
同馬丁				
同駐車場				
自動車營業				
同車輛				
同運轉手				
同車掌				
同駐車場				
電氣軌道				
森林産物營業				
信用告知及仲介業				
逮捕狀發令者				
窮民				
囘漕業				
仲仕業				
移民取扱業				
市場				
營業用索道				
自家用索道				
遊藝稼人				
骨牌販賣				
毘訴猶豫				
刑執行猶豫				
刑執行停止				
徵罪釋放				
不良青年				
犯罪嫌疑者				
賭博常習者				

種別	現在數	規定度數	執行度數	注意度數
保護出獄人				
假出獄者				
慈善行商				
營業用煙筒				
自家用煙筒				
鵜飼漁業				
藝妓置屋營業				
女給				
待合茶屋				
貸船營業				
柔道整腹術				
工業場				
天然記念物				
勞働募集者				
マツサージ術營業				
壓縮瓦斯及液化瓦斯取扱者				

種別	戸口調査	現在戸數	調査異動	計
保護	棄兒迷兒			戸
	家出人			件
	泥醉者			件
	傷痍病疾者			件
	變死セントセシ者			件
	出火消止			件
	道路其他教示			件
	窮民救護			件
	盜難ニ罹ラントセシ	人		件
		家		件
		船		件
	其他			件
	計			件
制止	歌舞音曲			件
	鬪毆者			件
	賭博類似ノ所爲			件
	未成年者喫煙			件
	禁制品			件
	小兒惡戲			件
	不良飲食物販賣			件
	其他			件
	計			件
取締	諸興行			件
	集會			件
	雜踏			件
	其他			件
	計			件
注意	戸締			件
	干物			件
	携帶品			件
	火氣			件
	其他			件
	計			件
注意	內務省令警察犯處罰令ニ觸レサリシ者			人
	其他諸規則ニ觸レサリシ者			人
止宿人	管內	男		人
		女		人
	管外	男		人
		女		人
	外國人	男		人
		女		人
	計	男		人
		女		人

第四號樣式

搜查簿

被告者住所氏名	罪名	犯罪ノ方法	犯罪ノ場所	犯罪年月日	搜查之經過及其模樣	被害之狀況

犯罪搜查簿取扱例

一　本簿ニ登錄スヘキ事件左ノ如シ

イ　受持區内ニ於ケル重輕罪

ロ　他部内ニ係ル重要ノ犯罪ニシテ區内ニ立廻ル見込アルモノ

二　本簿ハ一紙一件トシ一年毎ニ番號ヲ起スモノトス若シ一事件ニシテ被告人數多アルトキハ何號ノ一、二、三ト記スヘシ

三　被告人氏名不明ナルモ相貌特徴等知リ得タル事件ハ相當記入スヘシ

四　捜査經過及模様等特ニ詳記ヲ要シ用紙ニテ書キ盡シ難キトキハ普通罫半紙ニ記載シ本紙ノ次ニ編綴スヘシ

五　捜査報告ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

イ　犯罪報告規程（明治三十四年三月）第一條第一號乃至第九號ノ犯罪ハ一ケ年内ハ毎月二日

ロ　同規程第一條十號ノ犯罪ハ半ケ年内毎月一回

ハ　前各號期間後ハ時效成就迄必要ト認ムルトキ

第五號樣式

勤務日誌

何月何日　（認印）

一　酔倒人保護　何線路警邏中午前何時何處ニ於テ何々シ居ルヲ認メ呼ヒ起シ深ク說諭ヲ加ヘ歸宅ノ途ニ就カシム　（認印）

一　臨檢　非直ニ付午前何時ヨリ何時迄左記營業者ヲ臨檢シタルニ實屋何某ハ何々ニ付何日マテ整理スヘキ旨ヲ注意シタリ其他異狀ナシ

質屋何某　古物商何某

一　戸口調査　非直ニ付午後何時ヨリ何時マテ何町大字何ニ於テ實地ニ就キ左記戸口調査ヲナシタル處何ノ某方ニ曾テ見慣レサル一男子居合ハスニ付相尋ネタルニ何府縣何郡何町何某ニテ數日前ヨリ同家ニ寄宿スル旨申述ルモ其擧動ニヨレハ或ハ博徒若ハ前科者ナルヤノ疑アリ尚念ラス視察スヘシ其他出生男一女一逃走一ノ異動アリ

何某　何某　何某　以上イ號

何某　何某　何某　以上ハ號

以上何戸調査ス關係簿册ハ即日訂正加除シタリ

右ハ警察署（分署）勤務員ノ二三ノ例ヲ示シタルモノニシテ

一　警邏　午前何時何線警邏トシ何字ヘ向ケ出發午後何時歸所ヘシ

一　雜務　午後何時ヨリ何時マテ本日調査シタル何字ノ戸口調査簿ヲ整理ス（何字何某何某方若クハ何番戸ヨリ何番戸迄ノ戸口調査簿ヲ整理ス）

一　書類收發　何ノ某ヨリ何々ノ報告書ヲ認ム凡テ所内ニ於テ取扱タル事故ヲ記載スヘシ

一　欠勤　賜暇　監督

右ノ外參考トナルヘキ事故ハ表題ヲ設ケ記載スヘシ警察署（分署）派出所等一ケ所ニ數名在勤ノ場合ハ本簿ヲ一冊ト共同使用スヘシ

一　署長其他ニ於テ自ラ執行若ハ取扱タル事故ハ本簿ニ記載スヘシ

一　本簿ハ警邏出張等ノ場合ハ出發ノトキ時刻行先ヲ記載シ歸所ノトキ其時刻ヲ記シ其他ノ場合ハ事項終了ノ即日記載スヘシ

一　執行シタル記事等ニ對シ監督官關係外ニ注意若ハ質問ノ記載ヲナシタルトキハ速ニ相當處理シ其旨附記スヘシ

一　一人勤務ノ場合ニ於テハ事項ノ下ニ認印スヘシ

營業其他臨檢視察一覽簿樣式（略ス）

受訓簿樣式

用紙半紙判罫紙（大六年三月經訓令第七號ヲ以テ本樣式追加）

指示及推問	伺及答申

受訓目次

月日	件名	（高等ト普通トヲ區分スヘシ）

月日	一件	（高等ト普通トヲ區分スヘシ）	答申
	何、、、、、、、		（實行狀況又ハ實行不能ノ事由ヲ簡明ニ記載スヘシ）

家出人精神病者手配

手配月日	氏名	本籍住所	出人相其他摘要
解除月日	年齡	職業	
		年月日	

犯罪手配

手配月日	被害者氏名	事件名	摘要
解除月日	（被害場所）	（加害者）	

其他手配

手配月日	關係者	事件名	摘要
解除月日	氏名	（場所）	

高等警察要視察人手配

所在不明	本籍及住所	職業	氏名	年齢	特徴	（手配解除	部）
年月日						年月日	

特別要視察人、朝鮮人、要視察人ノ二部ニ分チ口座ヲ設ケ記載スルモノトス

新聞紙出版物手配

發賣發布禁止年月日	題名	記號番號	禁止事由	發行所	發行者	差押又ハ發見部數

●巡査服務心得關係令達

巡査服務心得第七十九條ニ依ル捜査簿用紙ハ當分ノ間犯罪報告規程ニ依ル捜査簿用紙ヲ代用相成度依命此旨及通牒候也

（明治三十五年一月警第一五〇號警務課長通牒）

巡査服務心得第七十三條第八號豫戒受命者ノ記載ハ本縣ノ命令者ニ限ル義ト御承知相成度依命此旨及通牒候也

（明治三十五年一月警第四二六號警務課長通牒）

巡査帶劍取扱ニ付テハ巡査服務心得ノ規定ニ依リ充分注意セシメラルヘキ義ト存候ヘ共其保管上注意スヘキ各項左ノ通心得ラルヘシ

（明治三十八年十二月十四日通達警第七三七九號各署長分署長ヘ）

一 劍身ハ奉書紙等柔軟ナル物ニテ時々拭淨スヘキコト

二 劍身ニ錆ヲ生シタルトキハ水油ヲ塗リ木賊ニテ磨クヘキコト

三　劍鞘ノ水氣ニ觸レタルトキハ直ニ乾燥柔軟ナル布ニテ拭淨スヘキコト

四　劍鞘ニ錆ヲ生シタルトキハ柔キ磨研布ノ類ヲ以テ磨クヘキコト

（明治三十九年六月七日指示警第一三號）

巡査服務心得ニ依リ受持區巡査ニ於テ調製スヘキ査察事故表ノ記載ハ其ノ事故取扱ノ日ニ於テシ且別ニ一通ヲ調製シ保存セシメラルヘシ

（明治四十四年六月一日警第四二〇一號）

各受持巡査ノ管掌ニ係ル勤務日誌記載方ニ付テハ明治三十四月十二月岐阜縣訓令第七十五號巡査服務心得第五號樣式中ニ例示有之候處爾來營業臨檢戶口調査等ニシテ何等事故ナキ場合ハ戶口調査及營業臨檢一覽表ニ登記スルニ止メ勤務日誌ニ一々其ノ氏名ヲ記載スルニ及ハス候條此段通牒候也

●巡査心得手帳ヘ挿入ノ件

（明治三十九年二月九日警第一五二〇號各署ヘ）

巡査心得印刷配布候條各巡査ニ交付シ貸與ノ手帳ニ挿入常ニ携帶セシメラレ度候

巡査心得（明治三十九年一月二十五日警務長通達）

一　巡査タルモノハ志操鞏固獻身職ヲ奉シ斃レテ後止ムノ心得アルヘキコト

一　巡査タルモノハ官吏服務紀律ヲ格守スヘキハ言ヲ俟タス常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖モ猥リニ政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコト決シテアルマシキコト

一　巡査タルモノハ常ニ人民ノ保護者タルコトヲ記臆シ之ニ對シ叮嚀親切ヲ旨トシ而カモ之ト相狎昵スルカ如キコトナク職務上ニ於テ負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキコト

一　巡査タルモノハ自身ハ勿論家族ニ至ルマテ專ラ品行ヲ正クシ警察官吏タリ又其家族タル體面ヲ汚損スルカ如キ所業決シテアルマシキコト

●交通巡査服務規程

（大正十二年六月十九日岐阜縣訓令乙第三百五十一號）

第一條　交通巡査ハ交通頗繁ニシテ特ニ取締ノ必要アル街路ニ配置シ交通ノ整理ニ從事セシムルモノトス

第二條　交通巡査其ノ職務ノ執行ニ當リテハ常ニ親切ヲ旨トシ周密ナル注意ヲ拂ヒ嚴正ニシテ機敏ナル行動ヲナシ交通上些ノ支障ナキヲ期スヘシ

第三條　交通巡査ハ指定ノ場所ニ於テ勤務スルモノトス其ノ場所竝勤務方法ハ警察署長ニ於テ之ヲ定メ警察部長ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　交通巡査ハ左腕上膊部ニ左記雛形ノ腕章ヲ附シ黑羅紗卷脚袢ヲ穿ツヘシ但シ雨天ノ際ハ長靴ヲ用ウルモノトス炎暑ノ際ハ「ヘルメツト」制帽ヲ用フル事ヲ得

（雛形略ス）

●警察官吏ノ言動ニ關スル件

（大正十年十一月二十六日警第七六六〇號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

警察官吏ハ常ニ民衆ニ接觸シ公安保持ノ重責ヲ有スルカ故ニ其ノ一擧一動特ニ意ヲ附シ職務ニ忠實ナラサルヘカラス然ルニ近時新聞紙或ハ投書等ニ依レハ中ニハ警察官吏タルノ本分ヲ誤リ人民ニ對シ粗暴過激ノ言動ヲ敢テシ或ハ素行ヲ紊シ世ノ狀議ヲ招クモノアルハ寔ニ遺憾トスル處ナリ爾今一層部僚ヲ戒飭シ自己ノ社會的地位ヲ自覺セシメ公務ニ關シテハ勿論私行ニ付キテモ世ノ指彈ヲ招クカ如キコトナカラシメ以テ嚴正ナル紀綱ヲ維持シ人民ノ信賴ヲ厚カラシムルニ努メ警務ノ

刷新改善上遺算ナキヲ期セラルヘク依命此段及通牒候也

●巡査身上ノ願届ニ關スル心得方

（明治二十四年七月 岐阜縣訓第二七六號）

第一條　新タニ宿所ヲ定メ又ハ轉宿シタルトキハ其旨速ニ届出ヘシ

第二條　疾病ニ罹リ引籠療養セントスルトキハ醫證ヲ添ヘ出務時間前ニ届出ヘシ若醫證ヲ求ムル暇ナキトキハ引籠届書ノミヲ出シ追テ執務時間ヲ過キサル内醫證ヲ差出スモ妨ケナシ

第三條　病症ニ依リ轉地療養ヲ要スルトキハ其地名及日數ヲ記シ醫證ヲ添ヘテ願出聽許ヲ受クヘシ

第四條　父母ノ疾病看護ノ爲メ引籠又ハ歸省ヲナサントスルトキハ其日數ヲ記シ醫證ヲ添ヘテ願出聽許ヲ受クヘシ

至急歸省ヲ要スルトキハ電報其他ノ文信ヲ以テ事實ヲ證明スルモ妨ケナシ但末項ノ場合ニ於テハ歸省後速ニ醫證ヲ差出スヘシ

第五條　歸省其他旅行中疾病ニ罹リ豫期限内ニ歸任スル能ハサルトキハ第二條ノ手續ニ從フヘシ

若シ變災其他非常事故ニ因ルトキハ其地警察官ノ證明書ヲ添ヘ届出ツヘシ

第六條　引籠療養中ハ醫家ニ往クノ外私ニ他出スルコトヲ得ス病症ニ依リ浴湯又ハ運動等ノ爲メ外出ヲ要スルトキハ醫證ヲ添ヘテ届出認可ヲ受クヘシ

第七條　第二條第三條第四條第五條前項ニ依リ缺勤中ノモノハ一週間毎ニ醫證ヲ差出スヘシ又隨時上官ノ臨檢ヲ受ケ又ハ其指名シタル醫師ノ診斷ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第八條　第二條第四條ノ缺勤日數七週間以上ニ及フモノハ議旨退職セシムルコトアルヘシ

第九條　忌引ヲ爲ストキハ死者ノ氏名續柄及ヒ忌引日數ヲ記シ届出ヘシ

歸省中ニ在テハ其許可日限ヲ過クルモ忌引日數内ハ引續キ滯在スルコトヲ得但除服出仕ヲ命セラレタルトキハ此限ニ非ス

第十條　父母ノ祭日ニ休暇ヲナサントスルトキハ一日前ニ届出ツヘシ

第十一條　族籍氏名ヲ變更シタルトキハ速ニ届出（知事宛）ヘシ

第十二條　奉職年數警約限内左ノ事由ニ依リ解職願出ルトキハ第一ノ場合ニ於テハ醫證第二ノ場合ニ於テハ醫證及父母所在地警察官ノ證明書第三ノ場合ニ於テハ一家現在地警察官ノ證明書ヲ添フヘシ但第七條末段ノ規定ハ本條ノ場合ニモ適用スルコトアルヘシ

第一　自身疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサル時

第二　父母重病ニ罹リ他ニ看護スヘキ家族ナキ時

第三　不慮ノ變災ニ罹リ他ニ一家ヲ維持スルモノナキ時

第十三條　婦ヲ娶ラントスルトキハ其族籍氏名年齡職業ヲ記シ近親二名及媒妁人ノ連署ヲ以テ結婚十五日前ニ届出テ許可ヲ受クヘシ

（明治二十九年四月 岐阜縣訓第六二號）

●巡査身分取扱手續

第一條　本表ハ巡査ノ履歷勤怠ノ程度技能其他總テ巡査ノ身分上ニ關スル事項ヲ記載スルモノトス

第二條　本表ハ警察部巡査教習所警察署及分署ニ備置キ警務課長巡査教習所長警察署長及分署長之ヲ管理シ異動ノ都度記載スヘシ

第三條　新ニ巡査ヲ命シタルトキハ警務課長ハ本表二通ヲ調製シ一通ハ所署長ニ回附スヘシ

第四條　巡査教習所ヲ卒業シタルトキハ所長ハ警務課長ニ課長ハ轉署先キノ所屬署長ニ回附スヘシ

巡査諸暇ノトキハ前所屬署長ヨリ轉署先ノ署長ニ他官廳ニ出向ノトキハ警務課長ニ回附スヘシ

第五條　族籍氏名ノ異動若ハ授勳陞敍結婚ノ事項ハ警部長ニ報告スヘシ

第六條　退職死亡ノトキハ本表ヲ別冊トシ所屬課、所、署長ニ於テ保存スヘシ

記載例

一 字體ハ楷書行文ハ簡明ナルヲ要ス

一 本表ノ事項ハ異動ノ都度漏ナク記載スルヲ要ス但勤怠事項ノ欄ニハ年初メニ於テ前年分ヲ記載スルモノトス

一 技能欄ニ記載シタルトキハ記入者捺印スヘシ

一 父母氏名欄ニハ實養父母其アラサルトキハ祖父母ノ氏名及生年月若シ實養父母祖父母トモアラサルトキハ兄弟姉妹ノ氏名生年月ヲ記載スヘシ

一 備考欄ニハ他日ノ參考トナルヘキコトヲ記載スヘシ

巡査身分表

本籍及出生地		
兵籍ノ關係		
技能		
族籍		
氏名		
年齢		
妻		

巡査身分表

父母氏名		
子		
一		

職務										
月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日
月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日

進		退		功		巡查身分表
月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	

二

勞		賞		褒		處		罰	
月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日	月 年 日

勤	欠	暇	賜	ノ

| 年別 | 勤惰 | | | 賞罰 | | |

●巡査身分表取扱手續ニ關スル件

（明治三十二年十月 警務課長通牒）

巡査身分表取扱手續ハ二十九年訓第六二號ヲ以テ被相定候處同手續中父母ノ死亡及子ノ生死ノ場合ニ於ケル報告方明文無之候得共右ハ身分表整理上當然必要之事項ニ付追テ追加可相成儀ト被考候得共爾今其都度御報告相成候樣致度且又同表記載例中現職以前ニ係ル職務記入方ニ付テハ別ニ明示無之候得共右ハ爾今總テ朱書候事ニ可致候條御承知相成度依命此旨及通牒候也

●巡査他ノ文官試驗ヲ受ケントスル者ニ關スル件

（明治三十二年九月 指示第四一號）

巡査ニシテ他ノ文官試驗ヲ受ケントスル者ハ爾今長官ニ申請シ認可ヲ受クヘシ

但誓約年限内ニ在ル者ハ試驗合格ノ曉ト雖モ該年限内ハ他官ニ轉セサル旨誓書ヲ添付スヘシ

●巡査ニシテ文官試驗合格者報告ノ件

（明治三十四年十一月 指示第五三號）

巡査ニシテ警察以外ノ文官考試ニ應シ合格證書ヲ得タル場合ニ於テハ其趣報告スヘシ

●警部巡査宿所標札及名刺書式

（明治三十六年四月二十九日 岐阜縣訓令第三十二號）

沿革 明治三九年五月縣訓第一九八號、大正八年一二月縣訓甲第三九號改正

宿所標札

木質適宜

竪八寸

岐阜縣警部 氏名

横二寸五分

木質適宜

竪八寸

岐阜縣巡査 氏名

横二寸

紙質鳥ノ子又ハ西洋紙

名刺 竪三寸三分

警察部何課「長」「勤務」

岐阜縣警部（位勳） 氏名

横二寸

何警察署「長」「勤務」

岐阜縣警部（位勳） 氏名

巡査教習所「長」「教官」

岐阜縣警部（位勳） 氏名

紙質鳥ノ子

竪三寸

警察部何課「勤務」「巡査部長」

岐阜縣巡査（位勳） 氏名

横一寸五分

巡査教習所「助教」「巡査部長」「教習生」

岐阜縣巡査（位勳） 氏名

又ハ西洋紙

何警察署「勤務」『巡査部長』 岐阜縣巡査(位勳) 氏 名					
何警察署何町村巡査部長派出所 「勤務」『巡査部長』 岐阜縣巡査(位勳) 氏 名					
何警察署「何派出所」『何駐在所』勤務 岐阜縣巡査(位勳) 氏 名					
何警察署何町村臨時巡査出張所勤務 岐阜縣巡査(位勳) 氏 名					
何警察署何請願巡査詰所勤務 岐阜縣巡査(位勳) 氏 名					

一 内勤、特務、刑事、署在地受持ハ何警察署勤務ト記シ其ノ内勤、特務、刑事、署在地受持等ノ勤務別ハ記スニ及ハス

●警部補標札及名刺書式ノ件

（明治四十三年三月二十九日 岐阜縣訓令乙第七十三號）

明治三十六年四月岐阜縣訓令第三十二號警部巡査宿所標札及名刺書式中警部ニ關スルモノヲ警部補ニ適用ス

●巡査名刺ノ件

（明治三十八年八月二十一日 警第三七〇二號第四部長通牒）

巡査名刺ハ訓令ノ規定ニ依リ合齊一ナルヘキ筈ナルニ其寸法ノ違フモノ其書式ノ違フモノ等有之哉ニ見受ケラレ候條注意相成度候

第二款　執務、休暇

●官廳執務時間

（大正十一年七月四日閣令第六號）

沿革　大正一三年六月閣令第四號改正

官廳ノ執務時間ハ休日及休暇日ヲ除キ左ノ通トス

四月一日ヨリ七月二十日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

午前八時ヨリ午十二時迄

九月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

十一月一日ヨリ三月三十一日迄

午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

土地ノ狀況ニ依リ又ハ事務ノ性質上必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ內閣總理大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ執務時間ノ變更、繰替又ハ延長ヲ爲スコトヲ得

事務ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ執務時間外ト雖執務スヘキモノトス

本屬長官ハ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以內ノ休暇ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間內ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ妨ケス

現業ニ從事スル者ノ執務時間及休暇ニ付テハ主務大臣別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治十六年十二月本達第三一號）

明治二十五年閣令第六號ハ之ヲ廢止ス

明治九年太政官達第二十七號中但書ヲ削ル

●勤缺表竝記載例

（用紙西ノ內一人一葉）

警察官吏勤缺表竝記載例左之通改正來ル明治十七年一月一日ヨリ施行候條此旨申達候事

（表略ス）

●巡査缺勤表等ニ關スル件

（明治二十年十二月指示第一七〇號）

巡査轉署ノ節ハ其轉署スル巡査ノ缺勤表竝ニ被服器具保存期限表及履歷書等取纏メ直チニ送致ス可キ筈ノ處往々其送致方ヲ怠リ或ハ送致セサル向モ有之趣キ右ハ不都合ノ次第ニ付將來轉署ノ巡査アリタルトキハ其轉署スルト同時ニ該表ヲ送致スヘシ

●巡査缺勤七週間以上ノ場合ニ關スル件

（明治三十三年一月指示第五號）

明治二十四年七月第二百七十七號巡査身上ノ願届ニ關スル心得方第八條ノ主旨ニ依リ缺勤日數七週間以上ニ及フモノハ缺勤ノ事由狀況ヲ具シ報告スヘシ

●休日ニ關スル件

（昭和二年三月四日勅令第二十五號）

左ノ祭日及祝日ヲ休日トス

元始祭	一月三日
新年宴會	一月五日
紀元節	二月十一日
神武天皇祭	四月三日
天長節	四月二十九日
神嘗祭	十月十七日
明治節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
大正天皇祭	十二月二十五日
春季皇靈祭	春分日
秋季皇靈祭	秋分日

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●休暇日ニ關スル件

（明治六年一月七日太政官布告第二號）

沿革　明治六年六月太達第二二一號改正

自今休暇左ノ通被定候事

一月一日ヨリ三日迄
十二月二十九日ヨリ三十一日迄

●官員父母祭日休暇ノ件

（明治六年九月十四日太政官達第三百十八號）

爾今諸官員父母ノ祭日ニハ休暇ヲ賜リ候此旨相達候事

●休暇ニ關スル件

（大正十三年七月十日訓令甲第四十六號）

沿革　大正一五年八月訓令甲第一一七號改正

知事官房、内務部、學務部、警察部、支廳、警察署、測候所、農事試驗場、農事試驗場分場、蠶業試驗場、蠶業取締所、蠶業取締所支所、商品陳列所、種畜場、種畜場分場、工業試驗場、工業講習所、輸出絹織物檢查所、穀物檢查所、縣立病院、娼妓病院、陶磁器試驗場、木炭檢查所

大正十三年六月二十四日閣令第四號ヲ以テ大正十一年七月閣令第六號第四項改正ニ付其ノ所屬職員ニ對シ七月二十一日ヨリ八月三十一日迄ノ間ニ於テ事務ノ繁閑ヲ計リ二十日以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得サル場合ニ於テハ他ノ期間ニ於テ之ヲ與フルコトヲ得但シ事務ノ都合ニ依リ當該期間内ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ妨ケス

大正十一年七月十二日岐阜縣訓令甲第三十六號ハ之ヲ廢止ス

●同上ノ件

（大正十三年七月十日十三官秘第一九六號）

本月十日本縣訓令甲第四十六號ヲ以テ休暇ニ關スル件訓令相成候處右休暇ハ各自ノ願出ニ依リ事務ノ繁閑ヲ計リ許可ヲ與ヘラルルコトニ相成候ニ付休暇ヲ受ケムトスル場合ハ豫メ日ヲ定メ願出許可ヲ受ケシメラレ度從來動モスレハ右願出ノ儘ヲ當日ニ至リテ爲スモノアルモ斯クテハ事務ノ都合上差支ヲ來ス處有之休暇ヲ與ヘラルル趣旨ニ悖戻シ官紀ノ弛廢ニ影響スル所不尠ト認メ候ニ付今後如斯繁習ヲ拂拭セシメラレ度尚左記事項ハ各課員ヘ御通達相成度依命此段申添候也

記

一　缺勤日數ノ多キ者ニ就テハ休暇日數ヲ裁量セラルルコトアルヘシ
一　休暇ヲ受ケムトスル者ハ遲クトモ其ノ前日退廳時限迄ニ許否ヲ決シ得ラルル樣課長ヲ經テ知事官房秘書係ニ差出スコト
一　本年中ニ既ニ休暇ヲ得タル分ハ之ヲ通算スルコト
一　休暇ノ許可ハ知事官房主事ニ於テ從來ノ休暇名簿ニ依リ手續ヲナスコト

●巡查看守休暇概則

（明治十八年七月三十日内務省達番外）

沿革　明治二八年一月内訓第一號改正

第一條　巡查看守ハ常ニ定員ノ充足ヲ要スルヲ以テ休暇ヲ許ササルヘキモノナレトモ其勤務上差支ナキニ於テハ皆勤ノ者ニ限リ特ニ慰勞ノ爲メ休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條　休暇ノ日數ハ左ノ割合ニ從フ

休暇日數	一箇年間皆勤ノ者
三週間	

半箇年間皆勤ノ者　一週間

前項ノ外五箇年已上皆勤ノ者ニハ一週間以内十箇年已上皆勤ノ者ニハ三週間以内特ニ休暇ヲ與フルコトヲ得

第三條　非番父母祭日及職務上負傷者ノ缺勤ハ缺勤日數ニ算入セス

第四條　休暇日數ハ數年ニ通算シテ併與スルヲ得ス

●巡査看守休暇概則ノ件

（明治二十七年二月七日指令）

一月九日付御省訓令第一號ヲ以テ巡査看守休暇概則第二條ヘ前項ノ外五ヶ年以上皆勤ノ者ニハ一週間以内十ヶ年以上皆勤ノ者ニハ三週間以内特ニ休暇ヲ與フルコトヲ得ト御追加相成候處右ニ付疑義ノ廉々左ニ相伺候

一　五ヶ年以上ノ皆勤ニ依リ一週間以内ノ休暇ヲ與ヘタル後尚ホ引續五箇年以上皆勤シ前後十ヶ年以上ニ至リタルトキハ更ニ三週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得ル義ニ候哉

二　前項ノ休暇ハ從來ノ休暇トハ稍其趣ヲ異ニスルヲ以テ本人ノ願ニ依リ許可スルノ手續ニ依ラス特ニ辭令ヲ以テ休暇ヲ與フル義ト心得可然哉

（明治二十七年二月七日内務省指令）

明治二十八年一月十六日付二第四號伺巡査看守休暇概則ノ件左ノ通心得ヘシ

第一項　伺之通

第二項　休暇ハ總テ特賜ニ係ルヲ以テ本人ノ願ニ依リ許可スヘキモノニアラス但辭令ヲ用ユルト否トハ其廳ノ適宜トス

第三項　五ヶ年以上ノ皆勤者ニハ十ヶ年ニ至ルノ間ニ於テ休暇ヲ與フヘキモノトス

●巡査休暇規則

（明治二十八年四月岐阜縣訓第一二三號）

第一條　部所署長ハ本則ニ依リ公務上差支ナキトキハ勤務勉勵ノ者ニ限リ特ニ慰勞休暇ヲ與フルコトヲ得

第二條　休暇日數左ノ如シ

一箇年皆勤ノ者　三週間

半箇年皆勤ノ者　一週間

前項ノ外五箇年以上皆勤ノ者ハ一週間以内十箇年以上皆勤ノ者ハ二週間以内トス

第三條　皆勤日數ノ計算法ハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　新任ノ者ハ實務ニ就キタル日及缺勤ノ者ハ出勤ノ日ヨリ起算シ半箇年ハ百八十日トシ一箇年ハ三百六十五日トス

二　非番、父母祭日、職務上負傷、職務上疾病及慰勞休暇日數ハ勤務ノ部ニ算シ忌引及點呼其他召集ノ爲メ出勤セサル日數ハ控除シテ前後通算スヘシ

第四條　皆勤一箇年又ハ半箇年ニ滿レハ其翌日ヨリ一箇年内ニ五箇年以上ニ及フモノハ十箇年ニ至ルノ間ニ於テ休暇ヲ與フルコトヲ得ス

半箇年皆勤シテ已ニ休暇ヲ與ヘシ者次ノ半箇年皆勤ヲ通算シテ前後一箇年ニ至ルモ三週間ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

五箇年以上皆勤シテ既ニ休暇ヲ與ヘシ者次ノ五箇年以上皆勤ヲ通算シテ前後十箇年以上ニ至リタル者ハ三週間以内ノ休暇ヲ與フルコトヲ得

第五條　部所署長ニ於テ休暇ヲ與フルトキハ左ノ雛形ノ證書ヲ附與スヘシ

表

休暇之證 巡査 何 某 明治 年 月 日ヨリ同 年 月 日マテ何箇年間皆勤ニ 付慰勞ノ爲メ何週間休暇ヲ與 フ因テ此證ヲ附與スルモノ也 明治 年 月 日 部所署長 官 氏 名印

用紙西ノ内四ツ切

裏

明治年月日ヨリ何日間休暇□㊞ □部所	署長印	

休暇心得

休暇中ト雖モ規則ヲ遵守シ行狀ヲ愼ムハ勿論水火災其他非常事變ノ場合ハ直チニ服務スヘシ

休暇中他行スルトキハ必ス此證ヲ携帶スヘシ

此證書ハ附與ノ日ヨリ何箇年間有效ノモノトス

第六條 半箇年皆勤休暇ノ證ヲ得タル者全ク休暇セス尙次ノ半箇年皆勤シタルトキハ更ニ三週間ノ休暇證書ヲ附與シ前ノ證書ヲ返納セシムヘシ

第七條 休暇證書ヲ附與シタルトキハ勤缺表裏面備考欄ニ其旨ヲ記スヘシ

第八條 休暇ヲ爲サシムルトキハ證書ノ裏面ニ其日數ヲ記シ部署長認印スヘシ

第九條 休暇中歸省又ハ旅行セントスル者ハ其宿所又ハ旅行先ヲ詳記シ部所署長ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十條 休暇中ト雖モ水火災其他非常事變ノ場合ハ速ニ服務スヘシ

第十一條 休暇證書ヲ遺失紛失シタルトキハ其事由ヲ具シ再渡ヲ請フヘシ

●毎日勤務ノ巡査部長及内勤巡査等休日ノ件

（大正十四年六月十二日 警第三〇六號通牒）

警察部長ヨリ各警察官署長宛

巡査配置及勤務規則第二十條第一項ニ該當スル巡査部長及第二十一條内勤特務刑事巡査ハ毎日勤務ト定メラレタル爲メ從來之等巡査ハ一般官廳ノ休日タル日曜祭日ト雖執務シ來リ候處斯クテハ年中一日ノ休養日モナキ有樣ニシテ甚タ酷ニ失スルノミナラス適當ノ休養日ヲ設クルハ能率ノ增進ヲ圖リ事務ノ研究刷新ヲ圖ル餘暇ヲ與フル上ニ於テ效果可有之候條爾今日曜祭日ハ事務ニ支障ナキ限リ休養セシメ差支無之依命此段及通牒候

追テ當日ハ巡査配置及勤務規則第三十二條ニ準シ確實ニ當直セシメラレ度爲念申添候

●巡査赴任前休暇ヲ與ヘサル等ノ件

（明治二十八年四月 指示第一九號）

巡査ニシテ他署ニ詰替ヲ命セラレタルモノ赴任前舊署長ニ於テ慰勞休暇ヲ與ヘ又ハ一身上ノ請暇ヲ許否スルヲ得サル儀ト心得ヘシ

●復職巡査休暇ノ件

（明治三十八年七月三日 警第二三二七號第四部長通牒）

復職巡査休暇日數計算方左ノ通ト御了知相成度候

一 休職日數ハ缺勤及皆勤日數ニ算入セス

二 休職日數ハ休暇證有效期間ニ算入セス

●警部又ハ警部補看護歸省ニ關スル件

（明治三十年二月 指示第二〇號）

警部又ハ警部補ノ父母病氣等ニテ歸省ヲ乞ハントスルモノハ醫師ノ診斷書或ハ來信文ヲ添ヘテ願出ヘシ

●巡査病氣療養ノ爲メ歸鄉願出方ノ件

（明治十三年四月 各警察署長臨時會議）

巡査病氣療養ノ爲メ歸鄉願出ル者實際大患不得止分ヲ除クノ外ハ聞屆ケサル事

第三款 服忌

●服忌ノ件

（明治七年十月十七日 太政官布告第百八號）

沿革 明治八年太政官附錄第一號京都府伺指令ニ武家制ハ元祿年中改正ノ分）明示セラル

一 服忌ノ儀追テ被仰出ノ所モ可有之候得共差向京家ノ制武家ノ制兩樣ニ相成居候テハ法律上不都合有之ニ付自今京家ノ制被廢候條此旨布告候事

（別冊略ス）

●服忌令

（明治七年十一月 太政官達無號京都府伺）

一 父母　忌五十日　服十三月
一 養父母　忌三十日　服百五十日

遺跡相續ノ養子ハ實父母ノ如シ同姓ニテモ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之

祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類ハ服忌無之遺跡相續セサル養子ハ同姓ニテモ異姓ニテモ養父母ハ定式ノ通忌服可受之養方ノ兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之實方ノ親類ハ定式ノ通相互ニ服忌可受之

一 嫡母　忌十日　服三十日

對面無之候ハハ不可受服忌通路致シ候ハハ對面無之共服忌可受之父死去ノ後他ヘ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌　但シ嫡母ノ親類ハ服忌無之

一 繼父母　忌十日　服三十日

初メヨリ同居セサレハ無服忌

父死去ノ後繼母他へ嫁シ或ハ父離別スルニ於テハ不可受服忌　但シ繼父母ノ親類ニハ服忌無之

一 離別之母　忌五十日　服十三月
一 夫　忌三十日　服十三月
一 妻　忌二十日　服九十日
一 嫡子　忌二十日　服九十日

家督ト定メサル時ハ末子ノ服忌可受之女子ハ最初ニ生レテモ末子ニ准ス

一 末子　忌十日　服三十日

養子ニ遣シ候テモ服忌差別ナシ家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一 養子　忌十日　服三十日

家督ト定ムル時ハ嫡子ノ服忌可受之

一 夫之父母　忌三十日　服百五十日
一 繼父母　忌三十日　服百五十日
　 母方　忌二十日　服九十日

離別セラレ候祖母モ服忌無別儀

一 曾祖父母　忌二十日　服九十日

母方ニハ照忌無之但シ遠慮一日

一 高祖父母　忌十日　服三十日

母方ニハ服忌無之但シ遠慮一日

一 伯叔父姑　忌二十日　服九十日

母方　忌十日　服三十日

父母種替リノ兄弟姉妹ハ半減ノ服忌可受之

一 兄弟姉妹　忌二十日　服九十日

別腹タリトイフトモ服忌ニ無差別

一 異父兄弟姉妹　忌十日　服三十日
一 嫡孫　忌十日　服三十日

嫡孫承祖タル時ハ嫡子ノ服忌可受之祖父母死去ノ時モ嫡孫ノ方ヘモ五十日十三月ノ服忌可受之此外ノ親類服忌差別ナシ

曾孫玄孫タリトハイフトモ同例也

一 末孫　忌三日　服七日

女子ハ最初ニ生レテモ末孫ニ准ス嫁方ノ孫服忌同前

一 曾孫玄孫　忌三日　服七日

嫁方ニハ曾孫玄孫共ニ服忌無之

一 從父兄弟姉妹　忌二日　服七日

父ノ姉妹ノ子竝母方モ服忌同前

一 甥姪　忌三日　服七日

姉妹ノ子モ服忌同前

異父兄弟姉妹ノ子ハ半減ノ服忌可受之

一 七歳未満ノ小兒ハ無服忌

父母ハ三日遠慮其外ノ親類ハ同姓ニテモ異性ニテモ一日遠慮日數過承候ハハ追テ不及遠慮但八歳ヨリ定式ノ服忌可受之

附七歳未満ノ小兒ノ方ヘモ服忌無之父母死去ノ時ハ五十日遠慮其外ノ親類ハ一日遠慮父母ハ年月ヲ經テ承候共聞付ル

日ヨリ五十日遠慮スヘシ

一 聞忌之事

遠國ニオキテ死去年月ヲ經テ告來ルトイフトモ父母ハ聞付ル日ヨリ忌五十日服十三月此外ノ親類ハ聞付ル日ヨリ服忌殘ル日數可受之忌ノ日數過テ告來ラハ一日遠慮服明候トモ同前

一 重ル服忌之事

父ノ服忌イマタ不明內母ノ服忌有之ハ母ノ死去ノ日ヨリ五十日十三月ノ服忌可受之オモキ服忌ノ內カロキ服忌アリテ日數終ラハ追テ不及受服忌日數アマラハ殘ル服忌ノ日數可受之

追加(元祿六年十二月二十一日)

一 養父死去以後養母同居セストイフトモ他ヘ不嫁候ヘハ服忌可受之他ヘ嫁スルニ於テハ服忌無之

一 養父ノ妻養ハレサル以前ニ死去候ハハ嫡母ニ准シ其親類服忌無之

一 父ノ後妻ト通路イタシ候ハハ對面無之トモ繼母ノ服忌可受之

一 義絕ノ嫡子ノ服忌ハ末子ニ可准之此外ノ親類義絕トイフ時ハ養方ノ親類實ノ如ク相互ニ服忌可受之

一 女子婚儀以前ヨリ養ハレ或ハ入聟ヲ取家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之

一 婚儀イマタ相調ハサル內ニテモ祝儀取カハシ候ヘハ夫婦相互ニ定式ノ忌ノ日數可遠慮但シ服忌無之

一 遺跡相續セサル養子養方兄弟姉妹他家ヘ養ハルル者ニハ相互ニ服忌無之

一 同姓ニテモ異性ニテモ一人ヘ兩樣ノ續有之ハ重キ方ノ服忌可受之

一 名字ヲ授候計ニテハ相互ニ服忌無之本姓ノ方ノ親類定式ノ通服忌可受之

一 離別ノ女ハタトヒ實子有之他ヘ不嫁候トモ夫婦ノ緣キレ候故相互ニ服忌無之

一 子無之死去候者名跡相續ノタメ親規ニ家督相續ノ時ハ養父ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准之死去候者七歲未滿ニ候ハハ服忌無之五十日可遠慮死去候者ノ親類ハ相互ニ定式ノ服忌可受之實方ノ親類ハ父母ハ定式ノ服忌可受之祖父母伯叔父姑ハ半減ノ服忌可受之兄弟姉妹ハ相互ニ半減ノ服忌可受之此外ノ親類服忌無之

一 養子願書差出之老中請取之其以後死去候ハハ家督不定內ニテモ養父母計リ五十日十三月ノ服忌可受之

但シ七日ハ四日也三日ハ二日也

一 一日ト有之ハ當夜ノ九ツ時ヨリ明ル夜ノ九ツ時マテ也九ツ前ニ候ヘハタトヒ四ツ半過ニテモ一日ノ積也

右十六箇條元祿六年追加ノ內也

今般聊省略而書載之

一 其父嫡母繼母ヲ以テ養母ニ定ムル時ハ忌五十日服十三月可受之母方ノ親類ノ服忌養實ノ差別家續ノ養子ノ如クタル可シ嫡母ノ子繼母ノ服忌ニ於テモ父ノ極メ次第右ニ同シ　但シ繼母方ノ親類ニハ服忌無之一家督相續ノ養子タル者實方ノ養母嫡母繼母服忌無之養子ハ右ノ服忌可受之

一 養方ノ伯叔父姑兄弟姉妹人ニ養ハルル者ハ半減ノ服忌可受之實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹他家ヨリ養ハルル者モ服忌無差別

一 其身養子ニ參リ實方ノ伯叔父姑兄弟姉妹ノ內人ニ養ハルルトイフトモ其儘半減ノ服忌タル可シ

一 父養子ニテ其子人ノ養子ニ參リ候時ハ父ノ父母兄弟姉妹養實トモニ半減ノ服忌可受之或ハ父モ養子其身モ養子ノ時ハ養子ノ實方服忌無之若シ實方ニ付テ半減ノ服忌可受續有之ハ服忌可受之

一 半減ノ服忌ニ祖父母伯叔父姑兄弟姉妹ト有之ハ母方ノ祖父母伯叔父姑異父兄弟姉妹モ同例

一 嫡子ヲ人ノ養子ニ遣ハス時ハ服忌末子ノ如クタル可シ

右七箇條更增補之

元文元年九月十五日

(指令) 一月七日

伺之通

但産穢及ヒ混穢不及憚儀ハ明治五年第五十六號同六年第六十一號布告之通可相心得事

第四款 赴任、出張、旅行

●警部警補巡査赴任期限

（明治二十四年七月岐阜縣訓第二六五號）

沿革 明治三四年四月縣訓令第四五號改正

警部警部補巡査赴任期限左ノ通相定ム但本文ニ牴觸スル從前ノ規程ハ總テ廢止ス

一 警部警部補巡査ノ赴任ハ辭令ヲ受タル日ヨリ警部警部補ハ五日巡査ハ四日以内ニ出發スヘシ但電信ニテ通知ヲ受ケタルトキハ其翌日ヨリ起算ス

二 至急ヲ要スル場合アルトキハ第一ノ期限ニ拘ハラス速ニ赴任スヘシ

三 公務ノ爲メ期限内ニ赴任シ難キコトアル時警部警部補ニ在テハ其事由ヲ警部長ヘ申請認可ヲ受クヘシ但申請書ハ〔分署長ハ〕警察署詰警部警部補ニ在テハ所轄警察署長ヲ經由スヘシ

●〔第四部〕員出張ニ關スル件

（明治三十九年九月十七日警第一〇三二五號）

從來出張ヲ命セラレ歸廳ノ際ハ口頭ヲ以テ復命相成候處爾今特種ノ命令ニ依リ出張スル場合ノ外ハ可成復命書ニ日誌ヲ付シ差出サルヘシ

●警部所轄外出張方ノ件

（明治四十年二月二十八日通達警第二〇八八號）

警部ノ所轄外出張ハ屢訓達シアル如ク必ラス其ノ事由ヲ具シテ申請指揮ヲ待ツテ後出發セラルヘク若シ機急事件ニシテ電報ヲ以テスルモ指揮ヲ待ツノ暇ナキ場合ニ限リ止ムヲ得ス出發後其ノ事由ヲ報告セラルヘキ營ニ有之候條篤ク注意相成度此段及通達候也

●警部補所轄外出張ニ關スル件

（明治四十三年七月二日通達警第四〇三一號）

警部補ノ所轄外出張ニ關シテ知事ノ認可ヲ受クヘキ筈ナルニ往々其ノ手續ヲ爲サス出張セシムル向アリ穩當ナラサル儀ニ付爾今ハ必ラス申請認可ヲ受ケ出張セシムル樣注意セラル可ク此旨通牒候也

追テ旅費ノ領收書ニハ認可書添付相成度此旨併セテ通牒候

第十一章　恩給

●恩給法

（大正十二年四月十四日法律第四十八號）

第一章　總則

第一條　公務員及之ニ準スヘキ者竝其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條　本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條　年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條　恩給年額竝一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條　恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條　時效期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨碍ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時效完成セス

時效期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治產者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時效完成セス

時效期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公認アルトキハ時效期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサル

モ之ヲ時效期間内ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給トヲ給セラルヘキ場合ニ於テ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受クルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外內閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ內閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ內閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ具申ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 內閣總理大臣及內閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス

第十五條 內閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一 文官及準文官竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二 軍人及準軍人竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除クノ外公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四 前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除クノ外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

五 警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

六 待遇職員及其ノ遺族ノ恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス但シ官國幣社ノ神職及其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號又ハ第四號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年中ニ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第六號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ揭クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ揭クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ含ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第四號若ハ第五號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條　國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二節　公務員

第一節　通則

第十九條　本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員竝第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條　文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十一條　軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍又ハ海軍ノ現役、豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在ル者

二　國民兵役ニ在ル者ニシテ召集セラレタルモノ及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者

準軍人トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生

二　勅令ヲ以テ指定スル陸軍又ハ海軍ノ學生生徒

第二十二條　教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　公立ノ學校若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二　府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十三條　警察監獄職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　警部補、巡査、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛及衆議院守衛

二　看守、女監取締、陸軍監獄看守及海軍監獄看守

三　判任官ノ待遇ヲ受クル消防手

第二十四條　待遇職員トハ左ニ揭ク ル者ヲ謂フ

一　判任官以上ノ待遇ヲ受ク ル神宮司廳職員、神宮神部署職員及官國幣社ノ神職

二　判任官以上ノ待遇ヲ受ク ル監獄ノ保健技師、保健技手、敎誨師、敎師、作業技手、感化院職員及矯正院職員

三　地方待遇職員令ニ依リ判任官以上ノ待遇ヲ受ク ル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

四　前三號ニ揭ク ル者ヲ除ク ノ外國庫ヨリ俸給又ハ給料ヲ給スル待遇職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第二十五條　本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職

二　現役軍人ニ在リテハ召集ニ依ル部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト

三　敎育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受ク ル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇ヲ受ク ル消防手ニ就職スルトキハ之ヲ轉任ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ任命

第二十六條　本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

一　文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

二　現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職

三　敎育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

四　警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハ之ヲ退職ト看做ス

五　待遇職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職

第二十七條　第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準敎育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

準軍人ノ就職トハ戰務、戒嚴地境內ノ勤務又ハ外國ノ鎭戍ニ服スルコトヲ謂ヒ退職トハ其ノ勤務ヲ終ルコトヲ謂フ

第二十八條　公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス

第二十九條　公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十條　軍人ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十一條　警察監獄職員ノ恩給權ニ付其ノ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテノ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テ之ヲ計算ス

第三十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ在記各號ノ規定ニ依リ加算ス

一　戰地ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ從軍期間ノ一月ニ付三月

二　戰地外ニ在リテ戰務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半

前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰爭ニ準スヘキ事變ニ際シ戰務ニ服シタル場合ニ付之ヲ準用ス

戰爭ノ期間及地域、戰務ノ範圍竝戰爭ニ準スヘキ事變ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域內ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ

付二月ヲ加算ス

前項ノ外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ヲ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 公務員戒嚴地境内ニ於テ危險ヲ顧ミス其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス

第三十五條 公務員外國鐵戍ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

第三十六條 航空機乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス

第三十七條 潛水艦乘員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潛水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第一項ノ地域及業務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從ヒテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十一條 左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數

四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

五 宮内職員トシテノ在職年月數ニシテ宮内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ

第四十二條 左ニ掲クル年月數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

一 宮内官ノ恩給規程ニ依リ宮内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ宮内職員トシテノ在職年月數

二 準軍人ノ在職年月數

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數

第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ準軍人ノ在職年ノ計算ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十一條ノ規定ハ前條第一項第二號乃至第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ病疾ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖恩給審査會ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス

公務員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル恩給ヲ給セス

第四十七條 前條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官、海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキト公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノトノ看做ス

一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ

二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ

三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災危ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ

前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具癈疾ノ程度竝教育職員、警察監獄職員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ囘復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給スヘキモノナルト前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病囘復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ

二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條第四號但書ノ規定ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ適用セス

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員ト・シテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮內職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

一 再就職後一年以上ニシテ退職シタルトキ

二 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三　再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條　前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ増加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癈疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷痍又ハ疾病カ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一　後ノ傷痍又ハ疾病カ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ起因スルトキハ別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ヨリ前ノ増加恩給年額ノ年額トス但シ後ノ傷痍又ハ疾病ノミニ因ル増加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス

二　後ノ傷痍又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額ニ前ノ増加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癈疾ノ程度ニ相應スル増加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ増加恩給ノ年額トス

第五十六條　前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條　前三條ノ規定ハ宮内省ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員トシテ宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條　普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

一　公務員又ハ第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ准軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコト無キニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第二號ノ規定ハ増加恩給ニ付之ヲ準用ス

第五十九條　文官ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立教育職員ハ每月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ此ノ限ニ在ラス

待遇職員ハ之ニ俸給ヲ給スル國庫、府縣其ノ他ノ經濟ニ對シ其ノ俸給又ハ給料ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ納付スヘシ

第二節　恩給金額

第六十條　文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年ト看做シテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十一條　軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ準軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ軍人ノ階等ニ應シ別表第一號表ノ十一年ノ額ト十二年ノ額トノ差額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ之ニ加給ス

在職年五十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年五十年トシテ計算ス

陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高ノ俸給ヲ受ケタル者ニハ高等官八等ノ額ヲ給ス

第四十六條、第四十七條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十一年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十一年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

準軍人ノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十二條　教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項、普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテノ勤續在職年十五年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十五年ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス

第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十三條　警察監獄職員在職十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテノ勤續在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ヲ控除シタル殘ノ勤續在職年十年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤續在職年中十年

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ警察監獄職員ニ付之ヲ準用ス

第六十四條　待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十條第三項及第四項竝第六十二條第六項ノ規定ハ待遇職員ニ付之ヲ準用ス

第六十五條　公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十六條　下士以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ノ程度ニ至ラサルモ之カ爲退職シ又ハ退職後一年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等竝傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條　文官在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條　下士以上ノ軍人在職年十一年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未滿ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條　教育職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條　警察監獄職員在職年一年以上十年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十一條　待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章　遺族

第七十二條　本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條　公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一　在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

二　普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條　未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條　扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一　公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二　公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル

金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及父子ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職一年以上十年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

下士以上ノ軍人在職年一年以上十一年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡者ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附 則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

一 官吏恩給法

一 官吏遺族扶助法

一 軍人恩給法

一 市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

一　府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治二十四年法律第四號
一　明治二十九年法律第十三號
一　官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則
一　明治二十九年法律第七十八號
一　明治三十三年法律第七十五號
一　明治三十三年法律第七十六號
一　明治三十三年法律第七十七號
一　巡查看守退隱料及遺族扶助料法
一　明治三十五年法律第二十九號
一　在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法
一　明治四十年法律第四十八號
一　明治四十年法律第四十九號
一　明治四十一年法律第三十五號
一　明治四十三年法律第三十號
一　明治四十四年法律第六十一號
一　明治四十四年法律第六十七號

一　明治四十五年法律第十一號
一　明治四十五年法律第十二號
一　大正七年法律第三十號
一　大正十年法律第三十五號
一　大正十年法律第九十四號
一　大正十一年法律第十八號
一　大正十一年法律第十九號
一　明治二十二年勅令第百三十三號
一　明治二十三年勅令第九十八號
一　明治二十五年勅令第十八號
一　明治二十五年勅令第三十二號
一　明治三十二年勅令第百九十六號
一　明治三十八年勅令第二百二十九號
一　明治四十年勅令第百八十八號
一　明治四十年勅令第百八十九號
一　明治四十一年勅令第七十一號
一　明治四十五年勅令第七十號

一 大正七年勅令第六十二號
一 大正十年勅令第二百六十八號
一 大正十一年勅令第八十七號
一 大正十一年勅令第二百八十四號
一 明治九年第九十九號達陸軍恩給令
一 明治十五年第四十一號達巡査看守給助例
一 明治十六年第三十八號達海軍恩給令
一 明治十七年第一號達官吏恩給令

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受クヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類竝給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ內閣總理大臣ノ爲シタル規定ハ其ノ他ノ規定ニ依ル具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ之ヲ本法ニ依ル內閣恩給局長ノ裁決ト看做シ從前ノ規定ニ依ル具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依ル具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ規定ニ依ル納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教員職員若ハ準教員職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教員職員若ハ準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限リ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條　內地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第九十二條　公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域內ニ勤務シタルトキハ當分ノ內在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三條　海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋廳巡查ノ職ニ在ルモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十四條　朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ統監府巡查補及朝鮮總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條　臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテノ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條　大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金タル恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條　第四十六條第二項第三項及年五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

第九十八條　第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癈疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ給スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

第九十九條　第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ內之ヲ適用セス其ノ退隱料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依ル但シ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官トハ互ニ之ヲ通算セス仍從前ノ例ニ依ル教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ揭クル在職年トノ間ニ付亦同シ

但シ學習院ノ職員トシテノ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行セラルル期間內ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金タル恩給ヲ受ケサル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應シ之ニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシテノ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

第百條　本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料ヲ受クル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ增額ヲ受ケサリシ軍人ノ遺族本法施行後扶助料ヲ轉給セラルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求ヲ竣タスシテ同法附則ノ規定ニ依リ增額セラレタルモノト看做ス

第四一條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金タル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法ノ所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ增給ス

第四二條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍醫官、海軍醫官、貴族院守衞若ハ衆議院守衞又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十三年四月改正前ノ俸給令ニ依ル俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ增額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡査又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ準用ス

第四三條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改正シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

（別表）

第一號表

在職年數	階等	將校及相當官				准士官	下士	兵卒
		佐尉官及相當官						
		高等官				判任官		
		親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等	海軍一等兵	陸軍上等兵 海軍二等兵	陸軍一等卒 海軍三等兵	陸軍二等卒 海軍四等兵	
十一年	圓	三、五〇〇	二、一六七	一、八六七	一、五三四	一、三一七	一、〇八四	七八四	五六七	四六七	四〇〇	二八五	二五五	二三五	二〇〇	一八一	一六五	一五〇	
十二年	圓	三、五五〇	二、二〇一	一、九〇四	一、五六四	一、三四三	一、一〇五	七九九	五七八	四七六	四〇八	二九二	二六二	二三二	二〇六	一八六	一七一	一五六	
十三年	圓	三、六〇〇	二、二四一	一、九四二	一、五九五	一、三七〇	一、一三七	八一五	五九〇	四八六	四一六	二九九	二六九	二三九	二一二	一九三	一七七	一六二	
十四年	圓	三、六五〇	二、二九七	一、九七九	一、六二五	一、三九六	一、一四八	八三〇	六〇一	四九五	四二四	三〇六	二七六	二四六	二一八	一九八	一八三	一六八	
十五年	圓	三、七〇〇	二、二四四	一、〇一七	一、六五六	一、四二三	一、一七〇	八四六	六一三	五〇五	四三三	三一三	二八三	二五三	二二三	一九四	一八九	一七四	
十六年	圓	三、七五〇	二、二八四	一、〇五四	一、六八六	一、四四九	一、一九一	八六二	六二四	五一四	四四〇	三一三	二九〇	二六〇	二三〇	二〇四	一九四	一七九	
十七年	圓	三、八〇〇	二、二八二	一、〇九二	一、七一七	一、四七六	一、二一三	八七七	六三六	五二四	四四八	三二七	二九七	二六七	二三六	二〇六	一九六	一八〇	

| | | |

第二號表

病傷原因	階等	親任	勅任	奏任	奏任待遇	判任	判任待遇	判任待遇
	症狀等差	勅任待遇	奏任待遇	奏任待遇	奏任待遇	判任待遇	判任待遇	判任待遇
		將校	佐官	尉官	准士官	下士	兵卒	
甲號	戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	特別項	圓	圓	圓	圓	圓	圓
		第一項	二、四〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	一、〇八〇	九九〇	九〇〇
		第二項	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	八二五	七五〇
		第三項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
		第四項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
		第五項	一、〇〇〇	七五〇	五〇〇	四五〇	四一三	三七五
		第六項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
乙號	普通公務	特別項	圓	圓	圓	圓	圓	圓
		第一項	一、九二〇	一、四四〇	九六〇	八六四	七九二	七二〇
		第二項	一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇
		第三項	一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇
		第四項	一、〇二四	七六八	五一二	四六一	四二三	三八四
		第五項	八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇
		第六項	六四〇	四八〇	三二〇	二八八	二六四	二四〇

備考 特別項ハ各號第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以内ヲ加ヘタルモノトス

第三號表

傷病原因	症狀等差	下士	兵卒	傷病原因	症狀等差	下士	兵卒
甲號	戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務	圓	圓	乙號	普通公務	圓	圓
	第一款	一、六五〇	一、五〇〇		第一款	一、三二〇	一、二〇〇
	第二款	一、四八五	一、三五〇		第二款	一、一八八	一、〇八〇
	第三款	一、三二〇	一、二〇〇		第三款	一、〇五六	九六〇
	第四款	一、一五五	一、〇五〇		第四款	九二四	八四〇
	第五款	九九〇	九〇〇		第五款	七九二	七二〇
	第六款	八二五	七五〇		第六款	六六〇	六〇〇
	第七款	六六〇	六〇〇		第七款	五二八	四八〇
	第八款	四九五	四五〇		第八款	三九六	三六〇
	第九款	三三〇	三〇〇		第九款	二六四	二四〇
	第十款	一六五	一五〇		第十款	一三二	一二〇

第四號表

階等	在職年數	將官及相當官	佐尉官及相當官	准士官	下士
		高等官		判任官	
		親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等
一年	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
二年							五四二	一九六	一四二	一二七	一〇〇	七一	六四	五六
								三九二	二八三	二三三	二〇〇	一四三	一二八	一一三

年	三	四	五	六	七	八	九	十
年								
					四、三七五	五、〇〇〇	五、六二五	六、二五〇
				三、二五〇	三、七九二	四、三三三	四、八七五	五、四二七
			三、三三三	二、八〇〇	三、二六七	四、二三三	四、八〇〇	四、六六七
		一、五三三	一、九一七	二、三〇〇	二、六八七	三、〇六七	三、四五〇	三、八三三
九八八	八一三	五八八	四二五	三五〇	三〇〇	二一四	一九二	一六九
一、三一七	一、〇八三	七八四	五六七	四八七	四〇〇	二八五	二三五	二〇五
一、六四六	一、三五四	九八〇	七〇八	五八三	五〇〇	三五六	三一九	二八二
一、九七五	一、六二五	一、一七六	八五〇	七〇〇	六〇〇	四二八	三八三	三三八
二、三〇四	一、八九六	一、三七二	九九二	八一七	七〇〇	四九九	四四六	三九四
二、六三三	二、一六七	一、五六八	一、一三三	九三三	八〇〇	五七〇	五一〇	四五〇
二、九六三	二、四三八	一、七六四	一、二七五	一、〇五〇	九〇〇	六四二	五七四	五〇六
三、二九二	二、七〇八	一、九八〇	一、四一七	一、一六七	一、〇〇〇	七一三	六三八	五六三

●恩給法施行令

沿革 六正一二年一二月勅令第五二〇號、一三年三月第五一號、一三年一二月第四〇七號、一四年四月第五三號、一五年七月第二四四號、同年九月第三〇四號改正

（大正十二年八月十七日勅令第三百六十七號）

第一條 恩給法第十條ノ規定ニ依リ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ハ扶助料ヲ受クヘキ遺族及其ノ順位ニ依ル同法第十條ノ恩給權者カ死亡ノ當時家族ナリシトキハ其ノ相續人ハ恩給權死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在リタルコトヲ要ス

第二條 恩給法第十條ノ場合ニ於テ死亡シタル恩給權者未タ恩給ノ請求ヲ爲ササリシトキハ恩給ノ支給ヲ受クヘキ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ裁定ヲ經タル恩給ニ付テハ死亡者ノ遺族又ハ相續人ハ自己ノ名ヲ以テ其ノ恩給ノ支給ヲ受クルコトヲ爲スコトヲ得

第三條 恩給法第十二條ノ規定ニ依リ内閣恩給局長以外ノ者ニ於テ恩給ヲ受クルノ權利ヲ裁定スヘキ場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 内地ニ於ケル公立ノ小學校、實業補習學校、幼稚園、盲唖學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

二 前號ニ掲クルモノヲ除クノ外内地ニ於ケル公立ノ學校又ハ圖書館ノ教育職員ニシテ文官ニ非サルモノノ一時恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事之ヲ裁定ス

三 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル公立ノ小學校、普通學校、公學校、實業補習學校、幼稚園、盲唖學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員竝其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ裁定ス

四 朝鮮、臺灣、樺太、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム以下同シ）又ハ南洋群島ニ於テ國庫ヨリ俸給ヲ受ケタル警察監獄職員（陸海軍ニ屬スルモノ及樺太ニ於ケル刑務所ニ屬スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督（道ノ警部補、巡査及消防手竝其ノ遺族ノ恩給ハ道知事）、臺灣ニ在リテハ臺灣總督（州又ハ廳ノ警部補及巡査竝其ノ遺族ノ恩給ハ州知事又ハ廳長）、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、關東州ニ在リテハ關東長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ裁定ス

五 内地ニ於テ國庫以外ノ者ヨリ俸給ヲ受クル警察監獄職員及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府廳ニ在リテハ府縣知事（警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監）之ヲ裁定ス

六 恩給法第二十四條第三號ニ掲クル待遇職員（國庫ヨリ俸給ヲ給スルモノヲ除ク）及其ノ遺族ノ恩給ハ北海道ニ在リテハ北海道廳長官、府縣ニ在リテハ府縣知事（警視廳部内ノ職員ニ在リテハ警視總監）、朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ裁定ス

第四條 恩給法第十七條第一項ノ規定ニ依リ分擔スヘキ恩給ハ普通恩給及扶助料トシ國庫カ恩給金額ノ分擔ヲ請求スル場

合ニ於テハ當該公務員ノ在職年中ニ恩給ノ負擔者ヲ異ニスヘキ二種以上ノ公務員ノ在職年ヲ含ムトキハ各在職年ノ年數ヲ其ノ各官職ノ最終ノ俸給年額（下士以下ノ軍人及之ニ相當スル準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ金額ヲ俸給年額ト看做スヿニ乘シタル數ニ比例シテ分擔請求額ヲ定ム

恩給法第四十五條ノ規定ニ依リテ普通恩給ヲ受クヘキ所定ノ年數ニ滿タサル在職年ノ者ニ給スル普通恩給及其ノ遺族ニ給スル扶助料ニ付テハ當該所定ノ年數ニ滿タサル年月數ハ分擔請求額計算上之ヲ當該恩給ノ負擔者ニ歸スヘキ在職年ト看做ス

分擔請求額ニ付在職年數ヲ計算スル場合ニ於テハ左ノ割合ニ依リ其ノ基礎タル在職年月數ニ加算ス

一　恩給法第六十二條第三項ノ規定ニ依リ加給スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付一年

二　恩給法第六十條第三項、第六十一條第四項、第六十二條第七項、第六十三條第五項又ハ第六十四條第三項ノ規定ニ依リ外國勤續ニ因ル加給ヲ爲スヘキ場合及同法第六十二條第四項又ハ同法第六十三條第三項ノ規定ニ依リ加給ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ加給セラルヘキ勤續在職年ノ一年ニ付六月

前三條ノ規定ハ恩給法第十七條第二項乃至第四項ノ分擔請求ニ付之ヲ準用ス

第五條　恩給ノ分擔ハ支給義務額ニ依リ之ヲ爲スモノトス

第六條　左ニ掲クルモノハ國庫ヨリ俸給ヲ給セサルモ恩給法第二十條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ文官トス

一　地方官官制第二條ニ規定スル府縣判任官

二　都市計畫地方委員ノ職員ニシテ官吏タルモノ

三　神宮司廳又神宮皇學館ノ職員ニシテ官吏タルモノ

四　朝鮮道立醫院ノ職員ニシテ官吏タルモノ

第七條　恩給法第二十一條第二項第二號ノ陸軍又ハ海軍ノ學生生徒トハ陸軍士官學校、陸軍幼年學校、陸軍戸山學校、陸軍工科學校、海軍兵學校、海軍機關學校及海軍經理學校ノ生徒、陸軍ノ士官候補生、海軍豫備生徒竝海軍豫備練習生ニシテ軍人ニ非サルモノヲ謂フ

第八條　恩給法第二十二條第二項ノ在外指定學校ノ外務大臣及文部大臣之ヲ指定ス但シ關東州ニ在リテハ關東長官之ヲ指定ス

前項ノ指定ニ關スル規程ハ外務大臣及文部大臣又ハ關東長官之ヲ定ム

第九條　恩給法第二十二條第三項ノ準教育職員トハ教授心得、助教授心得、教諭心得、助教諭心得、准訓導及判任官ノ待遇ヲ受ケサル保姆ニシテ專任教員タルモノヲ謂フ

第十條　恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

一　道路管理職員制ニ依ル職員

二　地方土木職員制ニ依ル職員

三　地方產業職員制ニ依ル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

四　地方測候所職員制ニ依ル職員

五　地方學校衛生職員制ニ依ル職員

六　地方社會教育職員制ニ依ル職員

七　地方社會事業職員制ニ依ル職員

八　防疫職員制ニ依ル職員

九　稅關官制第二十六條ノ規定ニ依ル職員

十　臨時海港檢疫所官制ニ依レ職員

十一　廳府縣衛生職員制ニ依ル職員

十二　癩療養所職員制ニ依ル職員

十三　家畜防疫職員制ニ保ル職員

十四　朝鮮地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、産業、衛生又ハ測候ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員（府費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

十五　臺灣地方待遇職員令ニ依ル地方ノ土木、衛生、産業又ハ物産檢査ノ事務又ハ技術ニ從事スル職員（市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク）

十六　關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ産業、土木又ハ衛生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員

第十一條　恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ

一　陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ

二　靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ、

三　鐵道醫

四　北海道廳電業手

五　朝鮮ニ於ケル監獄ノ業務ニ從事スル醫師鐵道醫及鐵道業務ニ從事スル醫師竝臺灣ニ於ケル警察醫

六　臺灣又ハ關東州ニ於ケル檢疫員及檢疫醫員

第十二條　恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在スル地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス

二　戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ニ屬スル地域ニ到著シタル月迄加算ス

前項ノ地域トハ內地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ準スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ

恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ例ニ依ル

一　勤員（之ニ準スルモノヲ含ム）部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、勤員之ニ準スルモノヲ含ム）下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス

二　戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰爭中其ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依ル加算ニ付之ヲ準用ス

第十三條　恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ鎭戍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ルノ外公務員鎭戍ノ爲內國ヲ出發シタルトキハ內國ヲ離レタル月ヨリ加算シ鎭戍ノ終了後直ニ內國ニ歸還シタルトキハ內國歸著ノ月迄加算ス

第十四條　恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ區分ニ依ル

一　同月內ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキ又ハ航空試驗ニ從事シタルトキハ其ノ一月ニ付一月半

二　同月內ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乘シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ繫船繫留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付一月

三　前二號ニ揭クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ一月ニ付半月

第十五條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊陬又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依ル

第十六條　邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到著シタル月ヨリ、其ノ地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ其ノ在勤ヲ止メタル月ヲ以テ終ル

前項ノ地域ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルトキハ全ク地域ヲ離レタル月ニシ對テハ邊陬又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス

第十七條　恩給法第三十八條ノ規定ニ依ル不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ

一　有害ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ內閣總理大臣ノ指定スルモノ

二　排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艇若ハ掃海艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸汽機關車乗員トシテノ現業勤務

三　炭坑内切羽ニ於ケル連續的現業勤務

四　肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務

前項ニ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルトキハ仝ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス

第十八條　恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經百六十度以東、東經百六十度北緯四十度ノ點ト東經百四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千浬ヲ超ユル航海ヲ謂フ

第十九條　航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到達港ニ達スル迄ノ期間ニ對シ之ヲ爲ス但シ出發ニ當リ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ內國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シタル月迄加算ス

航海中引續キ三十日以上航行セサルトキハ仝ク航行セサル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス

第二十條　恩給法第四十四條ノ本俸ニ準スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　年功ニ因ル加俸

二　府縣知事ノ指定地加俸

三　官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教授ノ職務俸

四　第一號ニ掲クルモノヲ防ク外市町村立小學校教員加俸令ニ依ル加俸

五　警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第二十一條　恩給法第四十八條第一項第一號ニ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル

第二十二條　恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ

一　マラリア（黑水熱ヲ含ム）
二　猩紅熱
三　コレラ
四　脚氣（戰地ニ限ル）
五　發疹チフス
六　腸チフス
七　パラチフス
八　ペスト
九　回歸熱
十　赤痢
十一　流行性腦脊髓膜炎
十二　流行性感冒
十三　肺ヂストマ病
十四　トリパノゾーム病
十五　ワイルス氏病
十六　カラアザール
十七　黃熱

第二十三條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依ル戰鬪ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍疾病トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

一　戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

二　暴徒鎭壓又ハ集團ヲ爲ス馬賊海賊審人等討伐中ノ敵對行動ニ因ル又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因ル傷痍疾病

三　外國ノ交戰若ハ擾亂ノ地域內ニ於テ勤務中又ハ該地域內ヲ旅行中ニ於ケル該交戰又ハ擾亂ニ因ル傷痍疾病

四　航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潛水艦ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因リ傷痍疾病

五　職務ヲ以テ兇賊又ハ脫獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘラルヘキコトヲ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲加ヘラレタル傷痍疾病

六　職務ヲ以テコレラ又ハペストノ防疫、診療又ハ看護ニ直接從事シ之カ爲罹リタル該疾病

第二十四條　恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具癈疾ノ程度ヲ分チテ左ノ七項トス

特別項症

一　常ニ就床ヲ要シ且複雜ナル介護ヲ要スルモノ

二　重大ナル精神障碍ノ爲常ニ監視又ハ複雜ナル介護ヲ要スルモノ

三　身體諸部ノ障碍ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ

第一項症

一　複雜ナル介護ヲ要セサルモ常ニ就床ヲ要スルモノ

二　精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ得ルニ過キサルモノ

三　咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ癈シタルモノ

四　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

五　肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　膝關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第二項症

一　精神的又ハ身體的作業能力ノ大部ヲ失ヒタルモノ

二　咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ癈シタルモノ

三　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　兩耳全ク聾シタルモノ

五　腕關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ

六　足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ

第三項症

一　咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

三　肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　膝關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

五　兩耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

第四項症

一　泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ

四　足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ

第五項症

一　鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ

二　頭部、顏面等ニ大ナル醜形ヲ殘シタルモノ

三　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

四　一側總指ヲ全ク失ヒタルモノ

第六項症

一　頭部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一側拇指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ

四　一側總趾ヲ全ク失ヒタルモノ

前項ノ各症ニ該當セサル傷疾病ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シ之ヲ査定ス

視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル

第二十五條　準文官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　高等官ノ試補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同四等トス

二　國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等等級ニ依ル

第二十六條　準軍人ノ公務傷病等ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス

二　前號ニ揭ケサル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス

三　前二號ニ揭ケサル陸軍請生徒及海軍像備練習生ノ階等ハ兵卒ニ準ス

第二十七條　教育職員及準教員職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一　教育職員ノ階等ハ其ノ官等等級又ハ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

二　準教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等等級令別表第二表ノ例ニ準ス

第二十八條　警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ判任官四等トス但シ警部補ハ其ノ等級ニ依ル

第二十九條　待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テノ階等ハ其ノ待遇官等等級ニ依リ勅任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇ヲ受クルモ官等等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等等級ニ依ル

第三十條　恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校ト同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ揭クルモノヲ謂フ（第三十一條ニ揭クルモノヲ除ク）

一　師範學校

二　高等女學校

三　專門學校令ニ依ラサル實業學校（實業補習學校ヲ除ク）

四　中學校又ハ前二號ニ揭クル學校ニ準スヘキ學校

五　實業補習學校教員養成所

六　朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ揭クルモノニ準スヘキモノ

七　在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ揭クル學校ニ準スヘキモノ

第三十一條　恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病ノ程度ヲ分チテ左ノ十款トス

第一款症

一　一側睾丸ヲ全ク失ヒタルモノ

二　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三　一耳聾シタルモノ

四　一側拇指ヲ全ク失ヒタルモノ

第二款症

一　一耳ノ聽力カ耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ

二　一側握持ノ機能ヲ廢シタルモノ

第三款症

一　一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ三メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

二 一耳ノ聽力カ十センチメートル以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ
三 一側示指ヲ全ク失ヒタルモノ
四 一側第一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第四款症
一 一側中指ヲ全ク失ヒタルモノ
二 一側示指ノ機能ヲ廢シタルモノ
三 一側第二趾ヲ全ク失ヒタルモノ
四 一側第一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第五款症
一 一眼ノ視力カ〇・一ニ滿タサルモノ
二 一側中指ノ機能ヲ廢シタルモノ
三 一側第二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第六款症
一 一側環指ヲ全ク失ヒタルモノ

第七款症
一 一眼ノ視力カ〇・二ニ滿タサルモノ
二 一耳ノ聽力カ四十センチメール以上ニテハ叵語ヲ解シ得サルモノ
三 一側環指ノ機能ヲ廢シタルアノ
四 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第八款症

一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ

第九款症
一 一眼ノ視力カ〇・三ニ滿タサルモノ
二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ叵語ヲ解シ得サルモノ
三 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ

第十款症
一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
二 前款ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ

第二十四條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ查定ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號ノ區分ニ依ル

第三十四條 恩給法第九十九條ノ教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ揭クル者ヲ謂フ
一 官立學校又ハ圖書館ノ職員
二 文部省官吏
三 教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、關東廳又ハ南洋廳ノ官吏
四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノ
五 教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏

第三十五條　廢官、廢職、廢廳、廢校若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキハ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ勤續ト看做ス

第三十六條　恩給法第百一條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル

一　軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給カ大正九年七月三十一日以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

二　軍人又ハ準軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ準軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス

三　增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等竝別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具癈疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍准士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ尉官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第二十五條乃至第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付之ヲ準用ス

四　執達吏ノ恩給ヲ更正スル場合ニ於テハ第一號ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス

前項ノ增額ヲ爲ス場合ニ於テハ外國勤續ニ因ル加給ハ之ヲ爲サス

第三十七條　恩給法第百二條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依ル假定俸給年額ニ增加シ之ヲ退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第百一條ノ規定ヲ適用ス

附　則

第三十八條　本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條　左ノ命令ハ之ヲ廢止ス

一　明治二十四年勅令第二百四十八號
一　明治二十七年勅令第五十二號
一　明治二十七年勅令第八十一號
一　明治二十七年勅令第四十五號
一　明治三十一年勅令第二百四十四號
一　明治三十二年勅令第百一號
一　明治三十三年勅令第百七十三號
一　明治三十三年勅令第四百四號
一　巡査看守退隱料及遺族扶助料法施行令
一　明治三十四年勅令第百五十號
一　明治三十五年勅令第百五十七號
一　明治四十一年勅令第百三十七號
一　明治四十三年勅令第百二十七號
一　明治四十四年勅令第七十號
一　大正六年勅令第二百四十一號
一　大正六年勅令第二百四十二號

一 大正九年勅令第三百二十三號

一 明治十八年第十五號達官吏恩給令附則

一 明治十八年第十六號達文官傷痍疾病等差例

一 明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則

第四十條 第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

（別表）

第一號表

	下	判任官			士	兵	卒
		二等	三等	四等			
準軍人ニ付テハ其ノ階等ニ依リ右表ヲ準用ス	七五圓			六一二圓			
				四六八圓			
							四一四圓

第二號表

（一）三分ノ二月ヲ加算スヘキモノ

| | | | | | | |

熙川郡
鐵山郡
大和島
朔州郡
昌城郡
碧潼郡
楚山郡
渭原郡
江界郡
慈城郡
厚昌郡

咸鏡南道
新興郡
長津郡
豐山郡
三水郡
甲山郡

咸鏡北道
茂山郡
會寧郡
鍾城郡
穩城郡
慶源郡
慶興郡

右ニ掲クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以内ニ在ル地ハ之ヲ除ク

街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛及中坑坪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

新高郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部

能高郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部

臺南州
嘉義郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部

高雄州
旗山郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部

屏東郡
街庄ヲ置カサル蕃地中カウ、サンテイモン、パタヒヨウ、マカザヤザヤ及カサギザン駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

潮州郡
街庄ヲ置カサル蕃地中カピヤン、アマワン、ボンガリイ、スボン、歸化門、崁頭、内獅頭、獅仔頭及四重溪駐在警察官管轄區域ヲ除キタル殘部

恒春郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部

東港郡
琉球庄

臺東廳
臺東廳管内中臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

コロンボ
孟買
ボートサイド
ハヴアナ
バナマ
里馬
リベロン
プレート
バウルー

花蓮港廳
花蓮港廳管内中花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以内ノ地域及其ノ以東ノ地域ヲ除キタル殘部

(二)二分ノ一月ヲ加算スヘキモノ

内地	朝鮮	臺灣	樺太	關東州	南洋群島	其ノ他
北海道 厚岸大黑島 根室諸島 千島列島 (安渡移矢岬、幌莚島及占守島ヲ除ク) 東京府 小笠原島 長崎縣 西彼杵郡 大立島 北松浦郡 五島白瀬、二神島 上縣郡 三島 福岡縣	京畿道 富川郡 八尾島、鳧島 忠清北道 丹陽郡 全羅北道 沃溝郡 末島 全羅南道 麗水郡 所里島 海南郡 時下島 慶尙北道 英陽郡 奉化郡	臺北州 宜蘭郡 頭圍庄ノ内龜山島 羅東郡 街庄ヲ置カサル蕃地中、清水、牛鬪、松羅溪駐在警察官管轄區域 蘇澳郡 街庄ヲ置カサル蕃地中寒溪、四方林、大元山駐在警察官管轄區域、蘇澳庄中東澳 文山郡 坪林庄中大字大舌湖、柑脚坑、鷲鷲岬、大粗坑、潤瀨、楣子寮、九芎林(字石槽、鷲子瀨、四堵ニ限ル)、街庄ヲ置カサル蕃地中タンピア、ウライ、ラハウ、阿玉駐在警察官管轄區域 海山郡 街庄ヲ置カサル蕃地全部 新竹州 新竹郡	名好郡 (名好村大字安別ヲ除ク)	海洋島 獐子島 小長山島 鳳鳴島 西中島	パラオ列島中 コロール島 サイパン島 ヤップ島	オムス クイルク ツク チタ ブラゴ ウエス チエン スク ハバロ フスク 滿洲里 黑河 齊々哈爾 掏鹿 洮南 太原 西安 南寧 蕪湖

宗像郡
沖島
鹿兒島縣
大島郡
曾津高埼、住用村、大字西仲間、龜津村、大字龜津、天城村、大字阿布木名、字平土野、同村、大字西阿木名、字西阿木名、大字實久、大字實久、大字榮名原、東方村、大字嘉鐵、字皆津
沖繩縣
大東島
伊江島
宮古島列島
八重山列島

黃海道
遂安郡
谷山郡
松禾郡
姉妹島
平安南道
孟山郡
陽德郡
德川郡
平安北道
義州郡（義州面ヲ除ク）
龜城郡（龜城面ヲ除ク）
泰川郡
雲山郡
寧邊郡
博川郡
定州郡
宣川郡
鐵山郡（大和島ヲ除ク）
龍川郡
江原道
麟蹄郡
楊口郡
三陟郡
蔚珍郡
旌善郡
平昌郡
寧越郡

街庄ヲ置カサル蕃地全部
大溪郡
街庄ヲ置カサル蕃地中八結、ケイフイ、カウジヤウ、竹頭角、水流東、角板山、合脂坪、ウライ、ヨウハブン、シツケイ、カウボウ、ラハウ、斷崖駐在警察官管轄區域
竹東郡
街庄ヲ置カサル蕃地中內灣、カラバイ、メカラン、內橫屏山、鵝屏山、ラハウ、シラツク、メホマン、シバジイ、マイバライ、シイガオ、大隘駐在警察官管轄區域
竹南郡
街庄ヲ置カサル蕃地全部
大湖郡
獅潭庄中大字獅潭字三洽坑、永興、街庄ヲ置カサル蕃地中八卦力、汶水、高熊峠、細道邦駐在警察官管轄區域
臺中州
東勢郡
街庄ヲ置カサル蕃地中牛欄坑、稍來坪、白毛、中坑坪駐在警察官管轄區域
能高郡
國姓庄中大字龜子頭、柑子林、塹溝
臺南州
嘉義郡
大埔庄、小梅庄中大字生毛樹、科子林

大冶
九江
漢口
長沙
福州
廈門
汕頭
廣東
雲南
ケプタウン
墨西哥
市ンバ
サロ
リオデ
ジヤネ
ーロ

伊川郡
咸鏡南道
北青郡
利原郡
端川郡
咸鏡北道
鏡城郡
明川郡
吉州郡
城津郡（城津面ヲ除ク）
富寧郡
右ニ揭クル地方ニ屬スル地ト雖鐵道停車場ヨリ五里以內ニ在ル地ハ之ヲ除ク

新化郡
南化庄 大字北寮ヲ除ク）
高雄州
旗山郡
甲仙庄
屏東郡
六龜庄（大字新威ヲ除ク）
潮州郡
枋山庄
恆春郡
街庄ヲ置キタル地域全部
澎湖郡
臺東廳
臺東街ヨリ里壠ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域
花蓮港廳
花蓮港街ヨリ玉里ニ至ル鐵道沿線二里以內ノ地域及其ノ以東ノ地域

第三號表

地域	流行病
八重山列島	マラリヤ（黑水熱ヲ含ム以下同シ）、赤痢
朝鮮	猩紅熱、腸チフス、パラチフス、赤痢、肺ヂストマ病
臺灣	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢

南洋諸島	マラリヤ、腸チフス、パラチフス、赤痢、黄熱
滿洲關東州	ペスト、腸チフス、パラチフス、赤痢
支那（滿洲ヲ除キ香港ヲ含ム）	マラリア、猩紅熱、コレラ、發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、赤痢、カラアザール
露領西伯利亞（薩哈嗹州ヲ含ム）	發疹チフス、腸チフス、パラチフス、ペスト、回歸熱、赤痢
北律賓諸島	マラリア、コレラ、腸チフス、パラチフス、赤痢
蘭領東印度諸島	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢
佛領印度、緬甸、馬來半島	マラリア、コレラ、發疹チフス、ペスト、赤痢
英領印度	マラリア、コレラ、ペスト、赤痢、カラアザール
中央亞米利加、南亞米利加	マラリア、腸チフス、パラチフス、赤痢、黄熱
墨西哥	マラリア、發疹チフス、黄熱
亞弗利加	マラリア、ペスト、回歸熱、赤痢、トリパノゾーム病、黄熱

第四號表

在職最終俸給年額	
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	五千五百圓ヲ超エ六千圓ヲ超エサルモノ
	三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ
	千二百圓ヲ超ユ三千圓ヲ超エサルモノ
	三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ
	三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ
	三百圓以下ノモノ

第五號表

在職最終俸給年額	增加スヘキ金額
五百圓但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額トス	五百圓
千五百圓	在職最終俸給年額ノ十分ノ七ニ相當スル金額ニ百圓ヲ加ヘタル額
三百圓	在職最終俸給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
	在職最終俸給年額ノ十分ノ三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額

恩給法

陸軍恩給令	軍人恩給法		從前ノ法令
大將	將官及相當官	親任一等	將官及相當官
中將		親任二等	
少將 同相當官		親任三等	
大佐 同相當官	佐尉官及相當官	親任四等	佐尉官及相當官
中佐 同相當官		高等官 一等	
少佐 同相當官		二等	
大尉 同相當官		三等	
中尉 同相當官		四等	
少尉 同相當官		五等	
准士官	准士官	六等	准士官
曹長 同相當官	判任官	七等	判任官
軍曹 同相當官		八等	
伍長 同相當官	下士	一等	下士
		二等	
		三等	
		四等	
上等兵	兵卒	陸軍上等兵 海軍一等兵	兵卒
憲兵上等兵		陸軍一等卒 海軍二等卒	陸軍二等卒 海軍三等卒
會計看護卒		陸軍二等卒 海軍三等卒	陸軍一等卒 海軍二等卒
看馬卒		陸軍一等卒 海軍一等卒	陸軍上等卒 海軍一等卒
樂生		一等卒二等卒	陸軍二等卒 海軍五等卒

陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢竝ニ其家族扶助概則	海軍恩給令	海軍退隱令
大將	大將	大將
中將	中將	中將
少將同相當官	少將同相當官	少將同相當官
大佐同相當官	大佐同相當官	大佐同相當官
中佐同相當官	中佐同相當官	中佐同相當官
少佐同相當官	少佐同相當官	少佐同相當官
大尉同相當官	大尉同相當官	大尉同相當官
中尉同相當官	中尉同相當官	中尉同相當官
少尉同相當官	少尉同相當官	少尉同相當官
准士官	准士官	准士官
曹長同相當官	一等兵曹同相當官	機關士副
軍曹同相當官	二等兵曹同相當官	水兵次長樂手
伍長同相當官	三等兵曹同相當官	大端舟長機關長屬火夫長屬海軍九等屬
	一等卒	一等水兵
	二等卒	二等水兵
兵卒	三等卒	三等水兵三等鍛冶
	四等卒	四等水兵
	五等卒	一等若水兵一等若火夫

備考

一 大正九年三月三十一日以前ニ海軍兵曹長同相當官タリシ者ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トシ其ノ他ノモノハ高等官七等トス

一 大正十年三月三十一日以前ニ退職シタル陸軍一等樂長ニシテ最高ノ俸給ヲ受ケタルモノハ高等官六等トス

一 名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因ル階等トス

第六號表

一 本表ニ該當セサルモノハ陸海軍武官官階及兵卒等級ノ例ニ依ル

從前ノ法令	傷病原因 症狀等差	恩給法 甲號 特別項	恩給法 甲號 第一項	恩給法 甲號 第二項	恩給法 甲號 第三項	恩給法 甲號 第四項	恩給法 甲號 第五項	恩給法 甲號 第六項	恩給法 乙號 特別項	恩給法 乙號 第一項	恩給法 乙號 第二項	恩給法 乙號 第三項	恩給法 乙號 第四項	恩給法 乙號 第五項	恩給法 乙號 第六項
官吏恩給法 第十四條第二項									症項ヲ査定ス						
官吏恩給法施行規則 第十二條										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
官吏恩給令附則 第五條										第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	第六號
軍人恩給法 第三號表甲號			第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項							
軍人恩給法 第三號表乙號										第一項	第二項	第三項	第四項	第五項	第六項
軍人恩給法 第十條第二項	症項ヲ査定ス								症項ヲ査定ス						
明治四年兵部省達陸軍士官兵卒給俸諸定則										一等傷痍	二等傷痍				
陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭粢竝ニ其家族扶助概則 第一條		戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	第一項		第二項		第三項			戰鬪以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者					
										第一項	第二項	第三項			

第七號表

高等官及同待遇	退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額
親王	九六〇〇〇	一二〇〇〇
親王妃	六〇〇〇	八〇〇〇
內親王	五〇〇〇	六〇〇〇
王	四五〇〇〇	五五〇〇〇
王妃	四〇〇〇	五〇〇〇
女王	三六〇〇	四五〇〇

判任官及同待遇	退職又ハ死亡當時ノ俸給年額	假定俸給年額
一等	一四四〇	一八〇〇
二等	一二〇〇	一五〇〇
三等	九〇〇	一一二五
四等	七二〇	九〇〇
五等	六〇〇	七五〇
六等	四八〇	六〇〇
七等	四〇〇	五〇〇
八等	三三六	四二〇

備考	巡査看守給助例第四條	施行令	及巡査看守給助法第一條	扶助料及支給規則	退隱料及遺族扶助料法
明治三十五年勅令第四十一號ニ定メタル事件ノ爲受ケタル傷痍ハ之ヲ戰闘ニ準スヘキ公務ニ因ル傷痍ト看做ス		第一號			
		第二號			
		第三號			
		第四號			
		第五號			
		第六號			

海軍退隱令第十八條	海軍恩給令第二十條	市町村立小學校教員及其遺族扶助料ニ關スル條例第十五條	公立學校教員退隱料及遺族扶助法第十條	職員及其遺族扶助法第十五條	北海道及樺太廳職員退隱料及遺族扶助令第十條	北海道及樺太廳職員恩給令第十一條
第一號	戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	第一號	第一號	第一項	第一號	第一項
第二號		第二號				
第三號		第三號		第二項	第二號	第二項
第四號		第四號				
第五號		第五號		第三項	第三號	第三項
第六號		第六號				

明治廿六年太政官達第十九條	明治九年太政官達第十一條
戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者	戰闘ノ爲傷痍ヲ受ケタル者
戰闘ニ準スヘキ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘ニ準スヘキ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者
戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者	戰闘以外ノ公務ニ因リ傷痍ヲ受ケタル者

第一項	第一號	第一項	第一號	第一項	第一號	第一項	第一號	第一項	第一號	第一項	第一號
第二項	第二號	第二項	第二號	第二項	第二號	第二項	第二號	第二項	第二號	第二項	第二號
第三項	第三號	第三項	第三號	第三項	第三號	第三項	第三號	第三項	第三號	第三項	第三號
第四項	第四號	第四項	第四號	第四項	第四號	第四項	第四號	第四項	第四號	第四項	第四號
第五項	第五號	第五項	第五號	第五項	第五號	第五項	第五號	第五項	第五號	第五項	第五號
第六項	第六號	第六項	第六號	第六項	第六號	第六項	第六號	第六項	第六號	第六項	第六號

| | | |

●恩給與規則

（大正十二年八月二十二日
勅令第三百六十九號）

第一章 恩給ノ請求

第一條 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受ケムトスル者ハ普通恩給請求書又ハ增加恩給請求書ヲ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ差出スヘシ

第二條 前條ノ恩給請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 在職中ノ履歷書

二 戸籍抄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）（退職後請求迄ノ間ニ於テ作成セラレタルモノ）

增加恩給請求書ニハ前項各號ニ揭クル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 傷痍疾病カ公務ニ起因シタルコトヲ認ムルニ足ルヘキ書類（例ヘハ現認者ノ現認證明書、所屬長ノ事實證明書等）

二 症狀ノ經過ヲ記載シタル書類

三 請求當時ニ於ケル診斷書

恩給ヲ改定スル場合ニ於テ前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前二項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第三條 恩給法第五十條第二項ノ規定ニ依リ再審査ヲ請求スル者ハ再審査請求書ニ前條第二項第二號及第三號ニ揭クル書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

再審査ノ請求アリタル場合ニ於テ裁定官廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定スル醫師ノ現在症狀證明書ノ提出ヲ請求者ニ命スルコトヲ得

第四條 一時恩給ヲ受ケムトスル者ハ一時恩給請求書ニ在職中ノ履歷書ヲ添附シ退職當時ノ本屬廳ヲ經テ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第五條 傷病賜金ヲ受ケムトスル者ハ傷病賜金請求書ニ第二條第二項各號ニ揭クル書類ヲ添附シ陸軍軍人ニ在リテハ陸軍大臣、海軍軍人ニ在リテハ海軍大臣ヲ經テ內閣恩給局長ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 扶助料ヲ受ケムトスル者ハ扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第七條、第八條第一項第二號又ハ第十條第二項ノ規定ニ依リ扶助料請求書ニ公務員（公務員ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第七條 恩給法第七十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員ノ在職中ノ履歷書

二 請求者ノ戸籍謄本（之ニ準スヘキモノヲ含ム以下同シ）

前項ノ場合ニ於テ公務員前ニ恩給證書ヲ受ケタルコトアルトキハ前項各號ニ揭クル書類ノ外其ノ恩給證書ヲ添附スヘシ

第八條 恩給法第七十三條第一項第二號ノ規定ニ依リ第一次ニ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二 公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ前條第一項各號ニ揭クル書類

前條第二項ノ規定ハ前項第二號ニ揭クル書類ヲ添附スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 前二條ノ場合ニ於テ公務員ノ死亡カ公務ニ因ル傷痍疾病ニ起因スルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ第二條第二項第一號及第二號ニ揭クル書類竝死亡者ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スヘシ

前項ノ死亡診斷書又ハ屍體檢案書ヲ添附スルコトヲ得サル場合ニ於テハ死亡ノ事實ヲ證スル公ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十條　恩給法第七十三條第一項各號ノ規定ニ依リ第二次以下ニ於テ扶助料ヲ請求スルコトヲ得ル者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　前扶助料權者カ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタルコトヲ證スル書類

二　前扶助料權者ノ扶助料證書

三　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テ前扶助料權者カ未タ扶助料ノ裁定ヲ經サルトキハ前項第一號ニ揭クル書類及前扶助料權者カ扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十一條　恩給法第七十四條第二項ニ規定スル扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ第七條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ヲ添附スヘシ

第十二條　恩給法第七十八條ノ規定ニ依リ扶助料ノ停止ヲ申請スル者ハ扶助料停止申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ

一　扶助料權者ノ所在不明ナルコトヲ證スル公ノ證明書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ恩給法第七十九條ノ規定ニ依ル扶助料轉給ノ請求ヲ爲スヘシ

第十三條　恩給法第七十九條ノ規定ニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル扶助料轉給請求書ニ請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡ノ時以後ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）ヲ添附シ裁定官廳ニ之ヲ差出スヘシ但シ前條ノ規定ニ依リ請求者ノ戸籍謄本ヲ添附シタル場合ニ於テハ其ノ添附ヲ要セス

第十四條　恩給法第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ受ケムトスル者ハ一時扶助料請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ第十五條第二號又ハ第十六條ノ規定ニ依リ一時扶助料請求書ニ公務員ノ在職中ノ履歷書ヲ添附スヘキ場合ニ於テハ公務員ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十五條　恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ不具癈疾ヲ證スル診斷書及生活資料ヲ得ルノ途ナク且扶養スル者ナキコトヲ證スル市町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ證明書ノ外左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員カ既ニ普通恩給ノ裁定ヲ經タルトキハ其ノ恩給證書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

二　公務員カ未タ普通恩給ノ裁定ヲ經サルトキハ公務員ノ在職中ノ履歷書及請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十六條　恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ請求スル場合ニ於テハ一時扶助料請求書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　公務員ノ在職中ノ履歷書

二　請求者ノ戸籍謄本（公務員死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十七條　恩給法施行令第二條第一項ノ規定ニ依リ恩給ヲ請求スル者ハ恩給ノ請求書ヲ裁定官廳ニ差出スヘシ但シ死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ其ノ本屬廳ヲ經由スヘキ場合ニ於テハ其ノ本屬廳ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十八條　前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　死亡シタル恩給權者カ恩給ヲ請求ストセハ添附スルコトヲ要スヘキ書類

二　請求者ノ戸籍謄本（死亡シタル恩給權者ノ死亡當時ノ請求者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ルモノ）

第十九條　一時扶助料ヲ給セラルヘキ者數人アルトキ又ハ恩給法施行令第二條第一項若ハ第二項ノ相續人數人アルトキハ

其ノ中一人ヲ總代者トシテ恩給ノ請求又ハ恩給支給ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十條 恩給ノ請求ニ付恩給證書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ之ヲ添附スルコトヲ得サルトキハ證據書類ヲ添ヘ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ

第二十一條 經由廳カ廢止セラレタル場合ニ於テハ書類ハ其ノ廳ノ事務ヲ引繼キタル廳ヲ經由スヘシ

第二章 恩給ノ裁定

第二十二條 經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ調査シ不備ノ點ナキコトヲ認メタルトキハ恩給金額計算書ヲ作リ履歷書、證明書其ノ他ノ添附書類ニ付其ノ廳ニ於テ證明シ得ヘキモノハ證明シ速ニ裁定官廳ニ之ヲ送付スヘシ

經由廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ經由廳恩給請求理由ナシト認メタルトキハ經由廳ハ恩給金額計算書ノ作成ヲ省略シ意見ヲ具シ恩給請求書類ヲ裁定官廳ニ送付スヘシ

第二十三條 裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ之ヲ審査シ恩給請求書ニ不備ノ點ナク且恩給ヲ受クルノ權利アリト認メタルトキハ年金タル恩給ニ付テハ恩給證書ヲ、一時金タル恩給ニ付テハ裁定通知書ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ第十七條ニ規定スル恩給ノ請求ニ對シテハ裁定通知書ヲ交付ス

裁定官廳ニ於テ恩給請求書類ニ不備ノ點アルコトヲ認メタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ不備ヲ追完セシムルコトヲ得

請求者前項ノ期間內ニ不備ノ追完ヲ爲ササルトキ又ハ裁定官廳恩給ヲ受クルノ權利ナシト認メタルトキハ裁定官廳ハ理由ヲ附シテ其ノ請求ヲ却下スヘシ

第二十四條 權利者又ハ關係廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ證據書類ヲ添附シ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第二十五條 裁定官廳ニ於テ恩給證書又ハ裁定通知書ニ誤謬アルコトヲ認メタルトキハ訂正ノ爲必要ナル手續ヲ爲シ其ノ旨ヲ關係廳ヲ經テ權利者ニ通知スヘシ

第二十六條 裁定官廳ハ審査上必要アリト認ムルトキハ請求者又ハ申請者ニ出頭ヲ命シ又ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第三章 恩給ノ支給

第二十七條 恩給ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ支給廳ニ呈示スヘシ

第二十八條 年金タル恩給ハ每年一月、四月、七月、十月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スヘカリシ恩給ハ支給期月ニ非サル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

年金タル恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ恩給ノ支給時期ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 支給廳ハ年金タル恩給ヲ受クルノ權利ノ消滅シ又ハ停止セラルヘキ原因タル事實アルコトヲ知リタルトキハ其ノ支給ヲ止メ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第四章 異動通知

第三十條 普通恩給ヲ受クル者官職ニ就キ恩給法第五十八條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ停止セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ就職當時ノ本屬廳ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十一條 年金タル恩給ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ（刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ除ク）又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ヲ爲シタル裁判所ハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十二條 年金タル恩給ヲ受クル者國籍ヲ失ヒ、死亡シ又ハ恩給法第八十條ノ規定ニ依リ其ノ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失フ場合ニ於テハ本人、遺族又ハ縁故者ヨリ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ通知スヘシ

第三十三條 年金タル恩給ヲ受クル者其ノ本籍又ハ現住所ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十四條 第三十條乃至前條ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ裁定官廳ニ對スル通知又ハ屆出ハ支給廳ヲ經由スヘシ

第五章 恩給證書ノ返還及再交付

第三十五條　年金タル恩給ヲ受クル者死亡シ又ハ恩給ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ恩給ヲ受クヘキ順位者ナキトキハ恩給證書ヲ占有スル者ハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

前項ノ場合ニ於テ亡失其ノ他ノ事由ニ因リ恩給證書ヲ返還シ得サルトキハ速ニ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

第三十六條　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ裁定官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條　恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ハ其ノ效力ヲ失フ

亡失ヲ理由トシテ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付アリタル後從前ノ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ發見シタルトキハ速ニ裁定官廳ニ之ヲ返還スヘシ

第三十八條　年金タル恩給ヲ受クル者其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ恩給證書及戸籍抄本ヲ添ヘ其ノ旨ヲ裁定官廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ裁定官廳ハ恩給證書ニ改氏名ノ事實ヲ記載シタル上之ヲ權利者ニ返付スヘシ此ノ場合ニ於テ裁定官廳ト支給廳トカ異ルトキハ支給廳ヲ經由スヘシ

第六章　具申及裁決

第三十九條　恩給法第十三條第一項ノ具申ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十條　具申書ニハ左ノ事項ヲ記載シ具申者記名捺印シ證據書類其ノ他必要ナル書類ヲ添附スヘシ

一　具申者ノ氏名、年齡及住所

二　對手者タル行政廳

三　具申ノ趣旨及理由

第四十一條　具申カ內閣恩給局長以外ノ者カ爲シタル行政處分ニ對スルモノナルトキハ具申書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ行政廳ハ具申書ヲ受取リタル日ヨリ十四日內ニ辯明書及必要ナル書類ヲ添ヘ內閣恩給局長ニ之ヲ送付スヘシ

第四十二條　內閣恩給局長ハ必要アリト認ムルトキハ期限ヲ定メ辯明書ニ對スル辯駁書、再度辯明書其ノ他必要ナル書類ヲ差出サシメ又ハ具申者若ハ對手者タル行政廳ノ主任者ニ出頭ヲ求ムルコトヲ得

第四十三條　裁決ハ理由ヲ附シタル裁決書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁決書ハ具申者及對手者タル行政廳ニ之ヲ送付スヘシ

附　則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國庫ノ支辨ニ屬スル恩給中內閣恩給局長ノ管掌ニ係ルモノノ給與細則

（大正十二年十月一日閣令第七號）

第一條　恩給請求書類ニシテ其ノ提出ニ付經由廳ノ定アルモノハ左ノ區分ニ從ヒ先ツ之ヲ經由廳ニ差出スヘシ

一　本屬廳ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノハ高等文官、同待遇、高等官試補、軍人及準軍人ニ在リテハ所管大臣ニ、判任文官、同待遇ニ在リテハ其ノ身分進退ヲ取扱フ廳ノ長官ニ之ヲ差出スヘシ

二　陸軍大臣又ハ海軍大臣ヲ經テ差出スヘキコトヲ定メタルモノ及本屬長官カ陸軍大臣又ハ海軍大臣ナルトキハ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ニ之ヲ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ聯隊區司令官又ハ所屬隊長ハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ進達スヘシ

三　在外指定學校職員ノ差出スヘキモノハ所管領事官ニ之ヲ差出スヘシ

第二條　裁定官廳ニ直接ニ差出スヘキコトヲ定メタル書類ハ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第三條　恩給請求書類ハ概ネ別紙樣式（第一號乃至第十五號書式）ニ準シ作成スヘシ

第四條　恩給給與規則第六條ノ規定ニ依リ扶助料請求書ヲ直接ニ裁定官廳ニ差出ス場合ニ於テ帝國外ニ居住スル者ハ所管領事官ノ現住證明ヲ受ケ書留郵便ヲ以テ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

第五條　本屬廳其ノ他ノ經由廳ニ於テ恩給請求書類ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書（第十六號乃至第二十一號書式）ヲ作リ證據書類ヲ添附シ內閣恩給局ニ送付スヘシ但シ數個ノ經由廳アルトキハ最終ノ經由廳ニ於テ計算書ヲ作成スヘシ

第六條　內閣恩給局ニ於テ給與ノ裁定ヲ爲シタルトキハ貯金局ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲スト共ニ恩給證書又ハ裁定通知書ヲ作リ請求者ニ之ヲ交付スヘシ

第七條　恩給ノ請求ヲ却下シタル場合ニ於テハ內閣恩給局長ハ請求者ニ對シ直接其ノ旨ヲ通知スルト共ニ其ノ要旨ヲ關係廳ニ通知スヘシ

第八條　內閣恩給局ニ於テ恩給給與規則第二十五條ノ規定ニ依リ誤謬ヲ訂正シ又ハ裁定ノ改訂ヲ爲シタル場合ニ於テハ貯金局ヲ經テ權利者ニ通知シ又ハ新證書ヲ交付スヘシ

第九條　恩給給與規則第三十一條ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ宣告又ハ取消ヲ爲シタル裁判所ハ別紙樣式（第二十二號又ハ第二十三號ノ書式）ニ準シ貯金局ヲ經テ內閣恩給局ニ通知スヘシ

第十條　恩給給與規則第三十六條ノ規定ニ依リ恩給證書又ハ裁定通知書ノ再交付ヲ申請セムトスル者ハ概ネ別紙樣式（第二十四號書式）ニ準シ再交付申請書ヲ作リ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ內閣恩給局ニ差出スヘシ

一　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ亡失シタルモノナルトキハ亡失ノ顚末及亡失後ニ於テ執リタル措置ヲ記載シタル書類竝其ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ警察官署等ノ公ノ證明書但シ裁定通知書ヲ亡失シタル場合ニ於テハ警察官署等ノ公ノ證明ヲ要セス

二　恩給證書又ハ裁定通知書ヲ毀損シタルモノナルトキハ其ノ顚末書及毀損シタル恩給證書又ハ裁定通知書

第十一條　恩給給與規則ニ依リ支給廳ヲ經テ內閣恩給局ニ差出スヘキ書類ハ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條　恩給法施行令第十四條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル加算ヲ爲スヘキ勤務ニ服シタルトキハ其ノ所屬長官ハ勤務日誌ヲ作リ恩給請求ニ際シ其ノ寫ヲ差出スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

左ノ閣令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法施行規則

官吏遺族扶助法施行規則

軍人恩給法施行規則

明治二十四年閣令第二號

明治二十四年法律第四號施行規則

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則施行規則

明治三十四年閣令第一號

明治三十五年法律第四十五號施行手續

明治三十九年法律第二十號施行手續

明治四十三年閣令第九號

明治四十四年法律第五十九號施行手續

公立學校職員退隱料及遺族扶助料支給規則

明治二十九年法律第十三號施行規則

在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料等支給規則

大正十一年閣令第五號

別紙

第一號書式

普通恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

氏 名印

年 月 日

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第二號書式

普通恩給
增加恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候ニ付普通恩給及增加恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

氏 名印

年 月 日

內閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第三號書式

增加恩給請求書

年 月 日(官職)ヲ退職致候處在職中ノ傷痍(疾病)爾後重症ニ赴キ候ニ付增加恩給ヲ給與改定相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第四號書式

扶助料請求書

右者 年 月 日死亡候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

本籍地
現住所

公務員又ハ普通恩給權者 氏名

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

氏名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第五號書式

扶助料請求書

右者 年 月 日失權候ニ付扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

前扶助料權者 氏名

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

氏名印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第六號書式

一時恩給請求書

年 月 日 官職)ヲ退職致候ニ付一時恩給ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所

年　月　日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第七號書式

一時扶助料請求書

公務員又ハ普通恩給權者ノ退職當時ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日死亡候ニ付恩給法第八十一條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員又ハ普通恩給權者トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日

氏　名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第八號書式

一時扶助料請求書

公務員ノ官職名　氏　名

右者　年　月　日在職中死亡候ニ付恩給法第八十二條ノ規定ニ依リ一時扶助料ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

年　月　日

氏　名印

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局　〇〇郵便局

備考　請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第九號書式

傷病賜金請求書

年　月　日(官職)ヲ退職致候ニ付傷病賜金ヲ給與相成度證據書類相添ヘ請求候也

退職當時ノ官職名
本籍地

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

現住所
氏 名 印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十號書式

扶助料轉給請求書

右者犯罪ニ因ル扶助料停止期間中扶助料ヲ轉給相成度證據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

停止中ノ扶助料權者 氏 名
公務員トノ身分關係
本籍地
現住所
氏 名 印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十一號書式

扶助料停止請求書

右者 年 月 日以來所在不明ニ付扶助料ヲ停止相成度證據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿

停止セラルヘキ扶助料權者 氏 名
公務員トノ身分關係
申請者 氏 名 印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十二號書式

再審査請求書

年 月 日退職ニ因リ普通恩給及增加恩給ヲ給セラレ候處未タ傷痍(疾病)回復セサルヲ以テ再審査相成度證據書類相添ヘ請求候也

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿
支給郵便局 ○○郵便局

退職當時ノ官職名
本籍地
現住所
氏 名 印

備考 請求者ノ氏名ニハ振假名ヲ附スヘシ

第十三號書式

履歷書

年	月	日	記事	官公署名

右相違ナキコトヲ證明ス

年 月 日

退職當時ノ官職名
氏 名印
年月日生

（退職當時ノ所屬廳ノ長）
官職 氏 名印

備考
一 履歷書ハ二通提出スヘシ
一 學歷、位記、勳記、賞與等ノ記載ヲ要セス

一 官職ノ任免、轉任、陞等、昇級等ハ順ヲ逐ヒ間隙ナキ樣ニ詳記スヘシ
一 退職ノ事由ヲ明記スヘシ
一 退職當時ノ所屬廳ノ長ハ他廳ニ關スル事項ニ付テハ照會ノ上之ヲ詳記スヘシ

第十四號書式

現認證明書

右者 年 月 日午前（後） 時 地ニ於テ（何）ニ從事中（何）ニ因リ（何）ノ事情ノ下ニ負傷（罹病）シタルコトヲ現認候也

年 月 日

公務員ノ官職名
氏 名

住所又ハ官職名
現認者 氏 名印

備考 本證明書ニハ傷病當時ノ狀況ヲ成ルヘク詳細ニ記載シ現認者多數アルトキハ二名以上連名スヘシ

第十五號書式

事實證明書

右者 年 月 日（何）ノ狀況ニ於テ（何）ニ從事シ 月 日頃ヨリ（何）ノ症狀アルヲ訴ヘ爾後（何）ノ處置ヲ施シタリ

公務員ノ官職名
氏 名

右證明ス

年 月 日

所屬長 氏 名印

備考 本證明書ニハ公務傷病ノ原因タル事實ヲ詳細ニ記載スヘシ

第十六號書式

前證書記號番號			
前在職年			
前職又ハ前階等			
前恩給年額			

普通増加恩給金額計算書	退職年月日	退職ノ事由	在職年數	退職當時ノ階等	恩給年額算出率	退職當時本俸ノ年額	本俸加算額
					百分ノ三百五十分ノ	圓	圓

居住地方廳名	公務傷病ノ原因	傷病ニ罹リタル年月日	症狀等差第項	每期給金額	普通恩給年額	初期支給額	大正年月ノ給額
		年月日		圓	錢	圓	錢

支給郵便局名	局	請求者ノ退職當時ノ官職名	氏名	年月日生	増加恩給	箇月分	

第十七號書式

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

内閣恩給局長氏名殿

官職 氏名印

| | | | | | | |

在職年	職數	退職當時ノ俸給年額	本俸	加俸	合計	退職當時ノ階等
			圓	圓	圓	
			錢	錢	錢	

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長氏名殿

官職氏名

一時恩給金額　金　圓

在職年内譯

實在職年	加算年	除算年
始終期 年月日	自 年 月 日	自 年 月 日
事由 年月數	至 年 月 日	至 年 月 日
始終期 事實 年月數	自 年 月 日	自 年 月 日
	至 年 月 日	至 年 月 日
合計 年 月	合計 年 月	合計 年 月

扶助料金額計算書

居住地 地方廳名　支給郵便局名

前扶助料權者ニ關スル事項	公務員トノ續柄	失權（停止）事由	失權（停止）年月日	證書記號番號	扶助料金額
			年　月　日	第　號	圓

公務員トノ續柄

氏名

年月日生

年月ヨリ給與

公務員ニ關スル事項	退職（死亡）年月日	退職ノ事由又ハ死因	在職年數	退職（死亡）當時ノ俸給年額	本俸	加俸	合計	退職（死亡）當時ノ階等	恩給證書ノ記號番號	恩給證書ノ附記	普通恩給金額	初期支給額	扶助料額	年金額	毎期恩給金額
	年　月　日				圓	圓	圓		第　號	年　月　日	圓	年月分ノ給額		圓	圓
					錢	錢	錢					ケ月分		錢	錢

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年　月　日

内閣恩給局長氏名殿

官職氏名印

在職年内譯

實在職年	加算年	除算年
始終期 年月數	始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
合計年月	合計年月	合計年月
總計年月		

第十九號書式

恩給法第八十一條ノ一時扶助料金額計算書

公務員ニ關スル事				
退職(死亡)年月日	退職ノ事由又ハ死因	在職年數	退職(死亡)當時ノ俸給年額	退職(死亡)當時ノ階等
年月日				

支給郵便局名	公務員トノ續柄	公務員トノ續柄
局	氏名	氏名
	年月日生	年月日生

恩給證書記號番號	第號	一時

第二十號書式

恩給法第八十二條ノ一時扶助料金額計算書	支給郵便局名
日	局

項	普通恩給年額	金圓	扶助料金額	金圓	扶助料年額	年分

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年月日

內閣恩給局長氏名殿

官職氏名印

在職年內譯

實在職年	加算年	除算年
始終期 年月數	始終期 事由 年月數	始終期 事由 年月數
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
自年月日 至年月日	自年月日 至年月日	自年月日 至年月日
合計年月	合計年月	合計年月
總計年月		

死亡年月日	年 月 日	公務員トノ續柄	氏名
死因			
在職年數			
死亡當時ノ俸給年額	本俸 圓 錢 加俸 圓 錢 合計 圓 錢		
死亡當時ノ階等		一時扶助料金額	金 圓

右取調候處相違無之候ニ付給與相成度

年 月 日

內閣恩給局長氏名殿

官職氏名印

在職年內譯

實在職年			加算年			除算年		
始終期	年月數		始終期	事由	年月數	始終期	事由	年月數
自年月日 至年月日			自年月日 至年月日			自年月日 至年月日		
自年月日 至年月日			自年月日 至年月日			自年月日 至年月日		
自年月日 至年月日			自年月日 至年月日			自年月日 至年月日		

合計年月	合計年月	合計年月	合計年月
總計年月			

第二十一號書式

傷病賜金額計算書

退職年月日	年 月 日	支給郵便局名	局
退職ノ事由		退職當時ノ官職名	氏名
退職當時ノ階等			
傷病ニ罹リタル年月日	年 月 日		
公務傷病ノ原因		傷病賜金額	金 圓
症狀等差	第 款		

右取調候處相違無之ニ付給與相成度

年 月 日

內閣恩給局長氏名殿

官職氏名印

第二十二號書式

年 月 日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年 月 日
判決確定年月日	年 月 日
刑期起算年月日	年 月 日
刑期滿了年月日	年 月 日

號

裁判所

第二十三號書式

年 月 日

內閣恩給局宛（貯金局經由）

氏名	
住所	
退職當時ノ官職名又ハ公務員トノ身分關係	
恩給證書ノ記號番號	第
罪名	
刑名	
刑期	
判決言渡年月日	年 月 日
判決確定年月日	年 月 日
刑期起算年月日	年 月 日
刑期滿了年月日	年 月 日

號

裁判所

執行猶豫期間	年
執行猶豫言渡取消年月日	年 月 日

第二十四號書式

恩給證書(裁定通知書)再交付申請書

一 恩給證書ノ記號番號(裁定通知書ノ番號)

一 恩給證書ノ日附(裁定通知書ノ日附)

一 恩給金額

右恩給證書(裁定通知書)ヲ亡失(毀損)致候ニ付再交付相成度申請候

年 月 日

退職當時ノ官職名又ハ
公務員トノ身分關係
本籍地
現住所

氏 名 印

内閣恩給局長氏名殿

支給郵便局 〇〇郵便局

●更正手續

(大正十二年八月二十二日 閣令第五號)

恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給中内閣恩給局長ノ管掌ニ依ルモノノ更正手續左ノ通定ム

更正手續

第一條 恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年九月三十日以前ノ日附アル證書ニ依リ支給スルモノニ付テハ受給權者ノ請求ヲ俟タス之ヲ更正シ其ノ更正年額ヲ表示シタル新證書ヲ發行ス

前項ノ新證書ヲ交付スル迄ハ更正年額ヲ表示シタル支給額票(第一號樣式)ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ依リ更正額ヲ支給ス

第二條 恩給法第百一條又ハ第百二條ノ規定ニ依リ增額スヘキ恩給、扶助料等ニシテ大正十二年十月一日以後裁定スヘキモノニ付テハ更正年額及從前ノ年額ヲ表示シタル證書ヲ發行ス

第三條 支給額票ハ受給權者ノ請求ヲ俟タス内閣恩給局ニ於テ之ヲ調製シ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第四條 第一條ノ新證書ハ貯金局ヲ經テ之ヲ受給權者ニ交付ス

第五條 第一條ノ新證書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ交付請求書(第二號樣式)ニ現住地ノ警察官署又ハ領事館ノ現住證明ヲ受ケ内閣恩給局ニ差出スヘシ但シ現住地ニ警察官署又ハ領事館ナキトキハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明ヲ受クヘシ

受給權者ハ内閣恩給局又ハ支給郵便局ヨリ前項ノ交付請求書ノ用紙ヲ受クルコトヲ得

第六條 前條ノ交付請求書提出後現住地ヲ變更シタルトキハ其ノ現住地ノ警察官署、領事館又ハ町村役場若ハ之ニ準スヘキモノノ現住證明書ヲ添ヘ速ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第七條 第一條ノ新證書ヲ發行シタルトキハ交付請求書ヲ差出シタル者ニ對シ貯金局ヲ經テ其ノ旨ヲ通知ス

受給權者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ從前ノ證書ニ新證書ノ受領證印ヲ爲シ之ト引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由ニ因リ従前ノ證書ヲ提出スルコトヲ得サルトキハ内閣恩給局ノ承認書ヲ以テ従前ノ證書ニ代フルコトヲ得

前項ノ承認書ヲ受ケムトスル者ハ恩給證書ヲ提出スルコトヲ得サル事由ヲ詳記シタル書面ヲ内閣恩給局ニ差出スヘシ

第八條 支給額票ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ貯金局ヲ經テ内閣恩給局ニ其ノ再交付ヲ請求スヘシ

第九條 大正九年七月三十一日以前ノ日附アル證書ハ大正十二年十月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十條 大正九年八月一日以後大正十二年九月三十日迄ノ間ニ於ケル日附アル證書及之ニ貼附シタル支給額票ハ大正十四年三月三十一日限リ其ノ效力ヲ失フ

第十一條 恩給法第百三條ノ規定ニ依リ新ニ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ恩給裁判則第一條及第二條又ハ第七條及第八條ノ規定ニ依ルノ外命第七師團長及陸軍大臣ヲ經テ其ノ請求書ヲ差出スヘシ

第十二條 従前ノ規定ニ依リ給スル恩給又ハ扶助料ヲ恩給法第百一條乃至第百三條ノ規定ニ依リ更正增額スル場合ニ於テハ第一條乃至第七條ノ規定ニ依リ先ツ同法第百一條又ハ第百一條乃至第百二條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲シ更ニ受給權者ノ請求ヲ俟ツテ同法第百三條ノ規定ニ依ル更正增額ヲ爲ス

前項ノ請求ヲ爲ス者ハ更正請求書(第三號樣式)ヲ第七師團長陸軍大臣ヲ經テ内閣恩給局長ニ差出スヘシ

第十三條 陸軍大臣前條ノ更正請求書ヲ受付ケタルトキハ恩給金額計算書ヲ添附シ其ノ他恩給裁判則ノ例ニ依リ之ヲ内閣恩給局長ニ進達スヘシ

第十四條 恩給ノ更正ニ關シ本令ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ恩給裁判則ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

表額給支正更降以渡月壹年三十正大

更正證書記號番號	更正年額
	圓
更正證書記號番號	更正一期額
	圓
名氏及書肩	

(内閣恩給局)

注意(一)本票ハ證書表面金額ノ上部ニ貼附スヘシ

(二)更正額ニ對スル新證書ハ追テ交付スヘキニ付其ノ際現證書ハ之ヲ還納スヘシ

（表面）

郵便切手ノ貼附ニ

郵便はがき

内閣恩給局

御中

東京市丸之内

Carte Postale

第二號様式（裏面）

書	大正	年	月	日
書	右現住者ヌルニトヲ證明ス 大正 年 月 日 警察（署長 分署長） 町村長			
請求	現住地 受給者 氏名印 也 恩給法ニ依ル更正證書及請求候			
付				
交	既請書記 既請書記	戸受給者 書	氏名	支給郵便局名	現住地府縣
				局	

第三號樣式

更正請求書

一退職年月日
一證書ノ記號番號
一證書ノ日附
一現恩給又ハ扶助料年額
一支給郵便局名（又ハ新ニ支給ヲ受ケムトスル郵便局名）

恩給法第百三條ノ規定ニ依リ前記恩給扶助料年額更正相成度此段請求候

年月日

内閣恩給局長氏名殿

退職當時ノ官職
氏名
年月日生
本籍地
現住地
請求者 氏名 印
年月日
第號
金圓

（注意）
一 請求書ハ第七師團司令部ニ差出スヘシ
二 請求書提出後本籍地又ハ現住地ヲ變更シタルトキハ速ニ内閣恩給局ニ届出ツヘシ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

〔大正九年法律第十號〕ニ依ル恩給扶助料等ノ增額及明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職給ノ增額ニ關スル件

（大正九年八月十九日勅令第二百七十八號）

總、海、外、大、陸、内、文、司、大臣副署

第一條 〔大正九年法律第十號〕第一條第一項、第三條及第五條ノ規定ニ依リ恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給年額ニ付左ノ區分ニ依リ增額シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ之ヲ基礎トシテ算出シタル年額ヲ以テ其ノ恩給、退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノノ年額トス

基礎俸給年額	增俸額給年額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	基礎年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額但シ七千五百圓ヲ超ユルトキハ七千五百圓トス
五千五百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	七千圓
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ千五百圓ヲ加ヘタル額
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ其ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額及二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ其ノ五割ニ相當スル金額及百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	基礎年額ニ三百圓ヲ加ヘタル額
三百圓以下ノモノ	基礎年額ニ其ノ十割ニ相當スル金額ヲ加ヘタル額

退隱料、扶助料又ハ之ニ準スヘキモノニシテ月俸額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲スモノニ付テハ前項ノ基礎俸給年額及增額俸給年額ヲ十二等分シ前項ノ規定ヲ準用ス

退隱料又ハ扶助料ニ準スヘキモノニシテ俸給額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲ササルモノニ付テハ前項ノ規定ニ準シ算出

シタル金額ヲ以テ其ノ退隱料又ハ扶助料ニ準スヘキモノノ年額トス

第二條 （大正九年法律第十號）第一條第二項ノ規定ニ依リ加算スヘキ金額ハ左ノ區分ニ依ル

在職最終俸給年額	加算金額
六千五百圓ヲ超エ七千五百圓未滿ノモノ	「五百圓」但シ在職最終俸給年額ニ五百圓ヲ加ヘタル額カ七千五百圓ヲ超ユルトキハ在職最終俸給年額ト七千五百圓トノ差額トス
五千百圓ヲ超エ六千五百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ト七千圓トノ差額
三千圓ヲ超エ五千五百圓ヲ超エサルモノ	千五百圓
千二百圓ヲ超エ三千圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ三十分ノ十三ニ相當スル金額ニ二百圓ヲ加ヘタル額
三百六十圓ヲ超エ千二百圓ヲ超エサルモノ	在職最終俸給年額ノ五割ニ相當スル金額ニ百二十圓ヲ加ヘタル額
三百圓ヲ超エ三百六十圓ヲ超エサルモノ	三百圓
三百圓以下ノモノ	在職最終俸給年額十割ニ相當スル金額

退隱料又ハ扶助料ニシテ月俸額ヲ其ノ年額算出ノ基礎ト爲スモノニ付テハ前項ノ加算金額ヲ十二等分シ前項ノ規定ヲ準用ス

第三條 第一條第一項ノ規定ハ（大正九年法律第十號）第四條ノ休職給ニ付之ヲ準用ス

第四條 大正九年七月三十一日現在ニ於テ明治二十三年勅令第二百五十四號ニ依ル休職判事ノ受クル休職給ハ第一條ノ規定ニ準シ算出シタル金額ヲ以テ其ノ休職給トス

附 則

本令ハ大正九年七月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス但シ第三條及第四條ノ規定ハ大正九年八月一日以後ノ分ヨリ之ヲ適用ス

●恩給法附則ニ依ル增額恩給更正規則

（大正十二年九月一日遞信省令第五十七號）

第一條 貯金局ニ於テ大正十二年閣令第五號其ノ他恩給法第百一條乃至第百三條ノ施行ニ關スル規定ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ニ支給額票貼附ノ手續ヲ爲サムトスルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第二條 受給者前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ支給郵便局ニ差出シ支給額票ノ貼附ヲ請求スヘシ

支給郵便局ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該證書ノ表面上部欄外ニ支給額票ヲ貼附シ日附印ヲ以テ契印シタル上之ヲ受給者ニ返付スヘシ

第三條 受給者現ニ年金恩給支給規則第十條ニ依リ從前ノ恩給、扶助料等ノ證書ヲ貯金局ニ寄託セルモノナルトキハ貯金局ニ於テ前條ニ準シ當該證書ニ對スル支給額票貼附ノ手續ヲ經テ舊保管證書ト引換ニ之ヲ受給者ニ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新ニ保管證書ヲ作成シ支給郵便局ヲ經テ受給者ニ交付スヘシ

第四條 受給者新證書受付ノ通知ヲ受ケタルトキハ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書又ハ裁定官廳ノ承認書表面餘白ニ新證書ニ對スル受領證印ヲ爲シ之ヲ指定ノ郵便局ニ差出シ引換ニ新證書ノ交付ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ同時ニ支給郵便局ヲ改訂スルモノナルトキハ郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ新支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條 第三條ノ支給額票ヲ貼附シタル從前ノ證書ニ對スル新證書ハ貯金局ニ於テ之ヲ引換ヘ保管ス

第六條 恩給ノ更正ニ關シ本規則ニ別段ノ規定ナキ事項ニ付テハ年金恩給支給規則ヲ準用ス

附 則

本規則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●年金恩給支給規則

（大正十二年十一月十日 遞信省令第九十二號）

第一章 總則

第一條 國庫ノ支辨ニ屬スル左ノ給與金ノ支給手續ニ關シテハ本規則ノ定ムル所ニ依ル

一 明治二十七年勅令第百七十三號金鵄勳章年金令ニ依ル給與金

二 大正十二年法律第四十八號恩給法ニ依ル給與金

三 持ニ賜與ニ係ル年金、恩給ノ給與金

第二條 前條ノ給與金ハ特別ノ場合ヲ除クノ外受給者ノ指定シタル郵便局ニ於テ之ヲ支給ス

第三條 給與金ノ支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス

一時限ノ給與金ニ付テハ前項ノ期日ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第四條 受給者居所ヲ變更シタルトキハ其ノ届書ニ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號ヲ附記シ支給郵便局ニ差出スヘシ

第五條 受給者轉居又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ支給郵便局ヲ變更セムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類、記號番號及新舊支給郵便局名ヲ記載シタル變更請求書ヲ作成シ新支給郵便局又ハ舊支給郵便局ニ差出スヘシ

郵便局ニ於テ支給郵便局變更ノ手續ヲ了シタルトキハ其ノ旨ヲ受給者ニ通知ス

第六條 代人ニ於テ本規則ニ依リ各種ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ本人ノ委任狀ヲ差出シ代人タルコトヲ證明シ且記名調印ヲ要スル書類ニハ代人タルノ肩書ヲ附シ記名調印スヘシ

前項ノ委任狀ハ本人ニ於テ當該書類ニ委任文ヲ記載シ記名調印シ之ヲ作成スルコトヲ得

第二章 繼續支給

第七條 繼續支給セラルヘキ給與ニ關スル證書ヲ受領シタル者ハ支給ヲ受ケムトスル郵便局ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ印鑑届ヲ作成シ之ヲ差出スヘシ但シ年金タル恩給ヲ受クル者ハ其ノ恩給請求書ニ記載シタル支給郵便局ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

第八條 受給者給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ年金證書、恩給證書其ノ他給與ニ關スル證書ヲ支給郵便局ニ呈示シ權利者タルコトヲ證明シタル上郵便局ノ交付スル用紙ニ依リ作成シタル給與金受領證書ヲ現金ト引換ヘニ差出スヘシ

前項給與金受領證書ノ用紙ハ郵便局ノ交付スル用紙ト同一樣式ノモノニ限リ之ヲ私製シ使用スルコトヲ得

第九條 受給者支給期月ヲ經過シタル後ニ於テ給與金ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號、給與金高竝支給郵便局名等ヲ記載シタル支給請求書ヲ貯金局ニ差出スヘシ

受給者前項ノ請求ニ對シ貯金局ヨリ支給ノ通知ヲ受ケタルトキハ前條第一項ノ例ニ依リ現金受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 受給者ハ給與ニ關スル證書ヲ豫メ貯金局ニ寄託シ其ノ給與金ヲ支給期毎ニ自己ノ郵便貯金ニ振替預入ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ給與金ハ其ノ支給期毎ニ貯金局ニ於テ之ヲ受給者ノ郵便貯金ニ組入ノ手續ヲ爲ス

第十一條 受給者振替預入ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ振替預入ヲ受ケムトスル郵便貯金通帳ノ記號番號、給與ニ關スル證書ノ種類及記號番號竝請求ノ要旨ヲ記載シタル請求書ニ給與ニ關スル證書ヲ添ヘ之ヲ支給郵便局ニ差出スヘシ

第十二條 貯金局ニ於テ前條ノ請求ニ依リ給與ニ關スル證書ノ寄託ヲ受ケタルトキハ其ノ保管證書ヲ當該受給者ニ交付スヘシ

第十三條 前條ニ依リ保管證書ノ交付ヲ受ケタル受給者ハ給與金ノ支給期毎ニ郵便貯金通帳ヲ支給郵便局ニ差出シ之ニ振替預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十四條 受給者第十條ニ依ル振替預入ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル届書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金局ニ差出スヘシ

貯金局ニ於テ前項ノ届書ヲ受ケタルトキハ其ノ保管スル給與ニ關スル證書ハ之ヲ受給者ニ還付ス

第十五條 受給者保管證書ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ、之ヲ毀損シタルトキハ保管證書ヲ添ヘ貯金局ニ其ノ再交

付ヲ請求スルコトヲ得

保管證書ノ再交付ヲ爲シタルトキハ從前ノ保管證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三章 一時支給

第十六條 一時限ノ給與金ヲ受クル者ニハ貯金局ヨリ支給郵便局ヲ經由シテ支給通知書ヲ送付ス

第十七條 受給者前條ノ支給通知書ニ依リ給與金ヲ受領セムトスルトキハ裁定官廳ノ裁定通知書ヲ支給郵便局ニ呈示シテ權利者タルコトヲ證明シタル上支給通知書ノ受領證ノ部ニ記名調印シ現金ト引換ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ支給郵便局ハ必要ニ依リ受給者ニ對シ市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ノ作成シタル印鑑證明書ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●地方長官主管ニ屬スル巡査看守退隱料及遺族扶助料取扱規程

（明治三十四年七月三十一日 内務省令第二十二號）

第一條 〔巡査看守退隱料及遺族扶助料法〕ニ依リ退隱料又ハ一時金ヲ受クヘキ者ハ退職當時ノ本屬廳府縣長官ニ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 在職履歷書

二 戸籍謄本

但シ一時金請求ニハ戸籍謄本ノ添付ヲ要セス

〔巡査看守退隱料及遺族扶助料法第三條第一項及第四條第三項〕ニ依ル退隱料年額增加ノ請求書ニハ前項書類ノ外前ニ受ケタル退隱料證書ヲ添付スヘシ

第三條 職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退隱料ヲ請求スル者ハ前條ニ揭ケル書類ノ外左ノ書類ヲ以テ其ノ事實ヲ證明スヘシ

一 傷痍又ハ疾病ノ職務ニ起因シタル事實ヲ認ムヘキ證據書類

二 醫師ノ診斷書

第四條 〔巡査看守退隱料及遺族扶助料法〕ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戸籍謄本及第五條乃至第九條ノ書類ヲ添付シ巡査タリシ者ノ最終ノ本屬縣廳府縣長官ニ請求スヘシ

第五條 退隱料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スルモノハ死者ノ受ケタル退隱料證書ヲ添付スヘシ

第六條 扶助料ヲ受クル者死亡シ又權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添付スヘシ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第八條 六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第九條 〔巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十條若クハ第十三條〕ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書、篤疾癈疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十條 廳府縣長官ニ於テ退隱料扶助料若クハ一時金ノ支給ヲ許可シタルトキハ證書ヲ作リ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十一條 退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シ若クハ停止ノトキ及一時支給ノ金額ハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十二條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若クハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ之ヲ給與ヲ行フ廳府縣

長官ニ届出ヘシ

第十三條 退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル廳府縣長官ハ證書ノ謄本ヲ作リ之ヲ本人ニ下付スヘシ

前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十四條 退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ第十條ノ證書ヲ添ヘ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル廳府縣長官ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上之ヲ本人ニ下付スヘシ

附 則

第十五條 本規程ニ於テ廳府縣長官ニ屬スル事務ハ廢官廢廳ノ場合ニ在テハ事務ノ引繼ヲ受ケタル官廳ニ移ルモノトス

第十六條 巡査看守給助例ニ依リ退職給助、傷痍給助又ハ死亡給助ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ハ其ノ給與ノ種類ニ從ヒ退隱料一時金又ハ扶助料ヲ受クル者若ハ受クヘキ者ニ準シ第十一條ヲ除クノ外本令ノ規程ヲ準用ス

第十七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本令ニ於テ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ニ於テ之ヲ行フ

第十八條 本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査看守退隱料遺族扶助料下附願書式及取扱方

（明治三十四年十月九日 岐阜縣告示第百九十六號）

沿革 明治四二年二月縣令第五號改正

巡査看守退隱料遺族扶助料願書式等左ノ通定ム

一 巡査看守退隱料及遺族扶助料ヲ受ケントスル者ハ第一號乃至第四號書式ニ依ルヘシ

二 巡査看守退隱料及遺族扶助料ノ支給ヲ許可シタル者ニハ第八號書式ノ證書ヲ下附ス但シ一時ノ支給ニ係ルモノハ此ノ書ヲ下附スヘシ

三 巡査看守退隱料及遺族扶助料ノ請求ハ（第五號乃至第七號書式）ニ依ルヘシ

四 年金及一時金ハ縣廳ニ於テ下附ス但シ遠隔ノ地ニ居住スル者ハ本人ノ望ニ依リ送金スルコトアルヘシ

代理人ニテ年金及一時金ヲ受取ラントスルトキハ委任狀ヲ携帶セシムヘシ

第一號（用紙半紙）

退隱料下附願普通恩給請求願

私儀何年何月ヨリ何年何月マテ滿何年間勤續退職（又ハ何年何月負傷（疾病）ニ付退職）候ニ付テハ相當退隱料御下附相成度別紙在職履歷書戸籍謄本相添此段願上候也

年 月 日

何府縣何郡市何町村何番戸地
（寄留）族籍
元岐阜縣何署勤務
元巡査 何 某 印

知事宛

第二號（用紙半紙）

遺族扶助料下附願（第八條第九條ノ場合）

私夫（父又ハ男孫）元巡査故何某義何々ノ爲メ何年何月何日死亡ニ付「相當扶助料御下付相成度」又ハ「某ニ於テ扶助料相受ケ居候處死亡（又ハ何々）ニ付私ヘ扶助料御下付相成度」別紙戸籍謄本及（隱退料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族扶助料ヲ請求スル者ハ死者ノ受ケタル退隱料證書）

（扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ確定裁判ノ謄本六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書）相添ヘ此段願上候也

年　月　日

何府縣何郡市何町村何番戸地
（寄留）族籍
元岐阜縣巡査故何某寡婦（男父母祖父祖母）
何　某　印

知事宛

第三號（用紙半紙）

遺族扶助料下附願（第十條ノ場合）

私兄（弟）元巡査故何某ニ於テ退隱料下附相成居候處何年何月何日死亡候ニ付テハ從來私儀死者ニ賴リ生計相營居候（又ハ癈篤疾ニテ自活スルコト能ハサル事實）ニ付相當扶助料下附相成度別紙戸籍謄本及（自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書）癈篤疾ニ付テハ醫師ノ診斷書相添ヘ此段願上候也

年　月　日

何府縣何郡市何町村何番戸地
（寄留）族籍
元岐阜縣巡査故何某兄（弟姉妹）
何　某　印

知事宛

第四號（用紙半紙）

遺族扶助料下附願（第十三條ノ場合）

私儀何年何月ヨリ扶助料相受ケ居候處本月ニ於テ滿二十歲ニ相成候ヘ共癈（篤）疾ニテ生計困難ニ付相當ノ扶助料下付相成度別紙戸籍謄本及（自活スル能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書癈篤疾ニ付テハ醫師ノ診斷書）相添ヘ此段願上候也

年　月　日

何府縣何郡市何町村何番戸地
（寄留）族籍
元岐阜縣巡査故何某男
何　某　印

知事宛

第五號乃至第七號（消滅）

第八號

表

退隱扶助料金何　圓

巡査看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ前記ノ年金ヲ受クヘキコトヲ認メ此證書ヲ附與ス

年　月　日

知事　氏　名印

裏

退隱扶助料證書

第　號

何府縣族籍
元巡査　何　某　何年何月生

元巡査故何某寡婦（又ハ何々）
何　某　何年何月生

裏面記載事項ハ左ノ如シ

裏面

〔巡査看守退隠料及遺族扶助料法〕

第十一條 退隠料ヲ受タル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ之ヲ給セス

一 國籍ヲ喪失シタルトキ

二 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十二條 遺族ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助料ヲ給セス

一 前條第一號又ハ第二號ニ當ルトキ

二 寡婦婚姻シタルトキ

三 子年歳二十歳ニ滿チタルトキ

四 尊屬ノ女婚姻シタルトキ

第十三條 子二十歳ニ滿ルモ篤疾又ハ癈疾ニシテ自活スルコト能ハス他ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其事由ノ存續スル間扶助料ノ三分ノ一ヲ給スルコトアルヘシ

第十四條 退隠料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隠料ノ支給ヲ停止ス

一 公權ヲ停止セラレタルトキ

二 六箇月以上行方不明ナルトキ

退隠料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ叙任官待遇以上ノ官職ニ就キタル場合ニ於テハ其ノ俸給月額ニ退隠料月割額ヲ合シ退職當時ニ於ケル俸給月額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對スル退隠料ノ支給ヲ停止ス

第十五條 扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者前條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間扶助料ノ支給ヲ停止シ第八條第九條ノ順位ニ依リ之ヲ次位者ニ轉給ス

第二十五條 本法ニ依ル給與金ノ一部又全部ヲ拒否セラレタル者其ノ拒否ヲ不當ナリトスルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニシテ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

地方長官主管ニ屬スル退隠料及遺族扶助料取扱規程

第四條 巡査看守退隠料及遺族扶助料法ニ依リ扶助料ヲ受クヘキ遺族ハ戸籍謄本及第五條乃至第九條ノ書類ヲ添付シ巡査タリシ者ノ最終ノ本屬廳府縣長官ニ請求スヘシ

第五條 退隠料ヲ受ケタル後死亡シタル者ノ遺族ニシテ扶助料ヲ請求スル者ハ死者ノ受ケタル退隠料證書ヲ添付スヘシ

第六條 扶助料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキ其ノ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ前者ノ扶助料證書ヲ添付スヘシ

第七條　重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタルニ依リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第八條　六箇月以上行方不明トナリタルニ因リ扶助料ノ轉給ヲ請求スル者ハ其ノ事實ヲ證明スヘキ確定裁判ノ謄本ヲ添付スヘシ

第九條　巡査看守退隱料及遺族扶助料法第十條若ハ第十三條ニ當リ扶助料ヲ請求スル者ハ自活スルコト能ハサル事實ニ付テハ市町村長ノ證明書、篤疾癈疾ニ付テハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十一條　退隱料及扶助料ハ其ノ年額ヲ四分シ四月、七月、十月、一月ニ於テ其ノ前三箇月分ヲ支給ス但シ退隱料ヲ受クル者死亡シ又ハ權利消滅シタルトキハ其ノ期月ニ拘ハラス之ヲ支給ス

第十二條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者死亡シ若ハ權利消滅シタルトキハ其ノ遺族又ハ本人ヨリ之ヲ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ屆出スヘシ

第十三條　退隱料又ハ扶助料證書ヲ亡失シタル者ハ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ屆出スヘシ

前項ノ屆出ヲ受ケタル廳府縣長官ハ證書ノ謄本ヲ作リ之ヲ本人ニ下付スヘシ

前項證書ノ謄本ハ本證書ト同一ノ效力アルモノトス

第十四條　退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者氏名ヲ改メタルトキハ第十條ノ證書ヲ添ヘ給與ヲ行フ廳府縣長官ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出ヲ受ケタル廳府縣長官ハ證書ノ裏面ニ其ノ事實ヲ記載シ長官署名捺印ノ上之ヲ本人ニ下付スヘシ

●巡査看守退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ヲ判任待遇以上ノ官職ニ任用ノトキ通報

（明治三十四年八月五日　内部省訓令第十三號）

本年法律第三十八號巡査、看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ヲ判任官待遇以上ノ官職ニ任用シタルトキハ任用官廳ヨリ俸給額及俸給支給ヲ始ムル日及其俸給ヲ廢止シ又ハ增減シタルトキハ其ノ額及其ノ期日ヲ右法律ニ依リ給與ヲ行フ臺灣總督廳府縣長官ニ通報スヘシ

●巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令

（明治三十四年七月二十六日　勅令第百四十九號）

沿革　明治三八年二月勅第三九號、大正四年三月第三五號、七年二月第一九號改正

第一條　巡査又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ本屬長官ニ於テ治療ヲ要スルモノト認ムルトキハ其ノ治療中療治料ヲ給ス

療治料ハ一日二圓以內トス但シ治療費一日平均二圓ヲ超過シタルトキハ適當ト認ムヘキ實費ヲ綜算シテ之ヲ追給スルコトアルヘシ

第二條　療治料ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ給助料ヲ給ス

一　治療二十日以上ニ渉リ引續在職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

二　療治料給與ニ係ル傷痍疾病ニ因リ職ニ堪ヘス退職シ治療ヲ要セサルニ至リタルトキ

前項ノ給助料ハ第一號ニ當ル者ニ在リテハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分トシ第二號ニ當ル者ニ在リテハ退職當時ノ月俸三箇月分トス

療治料ヲ受クル者治療二十日以上ニ渉ラスト雖引續在職シ本屬長官必要ト認ムルトキハ治療ヲ要セサルニ至リタル當時ノ月俸一箇月分以内ノ範圍ニ於テ給助料ヲ給スルコトアルヘシ但シ治療七日ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 巡査又ハ看守在職中死亡シタルトキハ左ノ順位ニ從ヒ其ノ家ニ在ル親族ニ弔祭料ヲ給ス但シ同順位間ニ在リテハ其ノ親等ノ最モ近キ者ヲ先ニシ同親等間ニ在リテハ男ハ女ニ先チ同性間ニ在リテハ長ハ幼ニ先ツ

一 配偶者
二 直系卑屬
三 直系尊屬
四 兄弟姉妹

前項親族ニシテ公權剝奪若ハ停止中ニ係リ又ハ行方不明ナルトキハ弔祭料ヲ給スル限ニ在ラス但シ次位者アルトキハ之ヲ轉給ス

弔祭料ハ死亡當時ニ於ケル月俸一箇月分トシ勤續一年以上九年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ死亡當時ニ於ケル月俸額三分ノ二ヲ增加ス但シ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ因テ死亡シタル者ニハ更ニ死亡當時ニ於ケル月俸六箇月分ヲ增加ス

第四條 前條ニ依リ弔祭料ヲ受クヘキ者ナキトキハ死亡者ノ爲葬祭ヲ行フヘキ者ニ前條ニ定ムル金額ノ三分一以内ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 休職者ハ在職者ニ準シ休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ニ依リ本令ニ依ル給與ヲ行フ

第六條 本令ニ依ル給與ハ之ヲ行フヘキ事由ノ生シタル當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス但シ休職者ニ在リテハ休職ヲ命セラレタル際俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第七條 本令ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警守、海軍警查、貴族院守衞、衆議院守衞、判任官ノ待遇ヲ受クル消防手及女監取締ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治三十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ノ件

（明治四十三年三月二十八日 勅令第百二十六號）

巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ハ警部補ニ之ヲ準用ス但シ勤續年數ノ計算ニ關シテハ明治四十三年法律第三十號ノ例ニ例ル

附 則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●巡査療治料給助料及弔祭料給與取扱規程

（明治三十五年六月四日 岐阜縣訓令第四十號）

内務部 警察部 警察署 警察分署

明治三十四年（十月）岐阜縣訓令第四十八號巡査看守療治料給助料弔祭料給與令取扱手續左ノ通改正ス

巡査療治料給助料及弔祭料給與取扱規程

第一條　巡査職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ職務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ疾病ニ罹リ療治料ヲ要スルモノト認ムルトキハ所屬課所署長（分署包含以下同シ）ニ於テ本人ヨリ醫師ノ診斷書ヲ徵シ其ノ傷痍及疾病ノ原由狀況ヲ詳具シ意見ヲ付シ上申スヘシ

第二條　前條ノ患者治療ヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ旨上申スヘシ

第三條　給與令第一條ノ療治料ハ左ニ揭クル費用ニ限ルモノトス

一　手術料又ハ診察料（醫師往診車賃ヲ含ム）

二　主治醫ノ指示シタル藥價及滋養物代價

三　看護人給及患者送致費

四　手術及治療上ニ關スル雜費

五　入院ノ必要アル者ハ其ノ入院費但シ入院費ハ普通二等トシ其病狀ニ依リ一等費額ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條　看護人給ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ支給ス

一　重症ニシテ特ニ看護人ノ雇入ヲ要スルトキ

二　公私立病院ニ入リ療養スルトキ若ハ旅行途中等ニテ看護スルモノナキトキ

三　自宅療養者ニシテ看護スル者ナク特ニ看護人ノ雇入ヲ要スルトキ

四　傳染病ニシテ家族ニ看護ヲ爲サシメ難キトキ

第五條　併發シタル餘病ニ關スル療治料ハ支給セス但シ變症ニ係ルモノ又ハ傷痍疾病ニ起因シタル併發病ニ關シテハ繼續支給ス

第六條　病症慢性トナリ且ツ執務上支障ナキ者ハ全癒ニ至ラスト雖トモ療治料ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條　前條ニ依リ療治料ノ支給ヲ停止スヘキ者アルトキハ所屬課所署長ニ於テ其ノ旨上申スヘシ

第八條　療治料ハ全癒ノ後ヲ所屬課所署長ニ於テ調査シ各實費ノ請求書ヲ添ヘ其ノ給與ヲ上申スヘシ但シ三十日以上ニ亙リ全癒セサルトキハ臨時上申スルコトヲ得

第九條　治療費（一日平均貳圓ヲ超過シタルトキ）追給ノ必要アリト認ムルトキハ所屬課所署長ヨリ上申スヘシ

第十條　療治料ヲ受クル者治療日數二十日以上ニ渉ラサル場合ニ於テ給助料ヲ給スヘキ必要アリト認ムルトキハ所屬課所署長ニ於テ其ノ事由ヲ上申スヘシ

第十一條　弔祭料ヲ給スヘキ者アルトキハ所屬課所署長ニ於テ其ノ死亡ノ原由ヲ記載シ其ノ受クヘキ人名竝ニ本人トノ親族關係ヲ上申スヘシ

●巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ關スル件

（明治三十四年十一月警甲第三九號內務省警保局長通牒）

甲號問合ニ對シ乙號之通回答候條爲御參考及通牒候也

（甲號）愛媛縣知事ヨリ警保局長ヘ問合（明治三十四年十一月警々丙第五〇三號）

本年七月勅令第百四十五號巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ依ル死亡當時ニ於ケル月俸一ケ月分ヲ給スヘキモノニ有之候哉又ハ九年勤續死亡セシモノノ額ヲ支給スヘキヤ目下差掛リタル件有之候ニ付御意見承知致度此段及問合候也

（乙號）警保局長ヨリ愛媛縣知事ヘ回答（明治三十四年十一月警甲第三九號）

本年十一月二日付警々丙第五〇三號ヲ以テ本年七月勅令第百四十九號巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令第三條ニ依ル弔祭料ノ件御問合相成候處右ハ十年以上勤續シタル者ニ對シテハ死亡當時ノ月俸一箇月分ノ外九年迄ノ增加額ヲ給與スヘキ義ト存候此段及回答候也

●巡査給助料弔祭料給與ニ關スル件

（大正十一年六月十二日 内務省分警第一三號通牒）

大分縣知事ヨリ警第一一五四號ヲ以テ照會

巡査退隱料、扶助料其他一時金給與ニ在リテハ精勤加俸、功勞加俸ヲ通算シ尙又懲罰ニ於ケル罰俸ノ適用ニ際シテモ併算スルコト相成居候處獨リ巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ニ於ケル給助料及弔祭料算定ニ付テハ何等加俸ヲ通算裁決スヘキ御通牒無之然ルニ大正九年十月內務省發警第七十一號通牒中同年八月勅令第二百七十八號第一條ニ所謂俸給トハ加俸ヲ合算シタルモノト解スヘク樣申述ヘラレ尤モ之等モ退隱料、扶助料等算定方ニ付テノ事柄トハ被存候得共給助料、弔祭料給與ニ關シテモ該通牒ノ趣旨ニ依リ俸給トハ加俸ヲ併合シタルモノト認メ其ノ額ニ依リ算定給與シ差支無之候哉何分ノ御意見承知致度此段及照會候也

大分縣知事ヘ回答

四月二十五日付警第一一五四號ヲ以テ御照會相成候本件ハ御見込ノ通精勤加俸及功勞加俸ハ巡査看守療治料、給助料及弔祭料給與令ニ於ケル給助料及弔祭料ノ算定ニ付テハ之ヲ月俸ニ通算可相成義ト御了知相成度候

●警部補死亡ノ場合ニ於ケル弔祭料給與ノ件

（大正十四年六月十五日 内務省發警第四二號）

警保局長ヨリ府縣長官宛

標記ノ件ニ關スル別紙甲號照會ニ對シ乙號通同答候條御了知相成度

甲號

（大正十四年三月十二日）

明治四十三年三月勅令第百二十六號ヲ以テ巡査看守療治料及弔祭料給與令ヲ警部補ニ準用ストアリ

同年勅令第百三十五號ノ判任官俸給令第十三條ニ判任官死亡シタルトキハ在職最終月俸四月分ヲ其遺族ニ支給ストアリ

以上ノ規程ニヨリ警部補タル判任官在職中死亡ノ場合ニ其遺族ハ二箇ノ給與ヲ受クヘキモノノ如ク解セラルルモ右ハ執レモ祭祀料タル意味ニ外ナラス何レカ一方ヲ適用スルヲ正當ト認ムヘク前法後法ノ關係ヨリ見レハ第百三十五號ニ依ルヘキモノト存セラレ候處差掛リ給與ノ事實相生シ居リ候ニ付至急何分ノ御回示相煩度此段及御回答候也

乙號

（大正十四年六月十五日 内務省發警第四二號）

警保局長ヨリ奈良縣知事宛

三月十二日附官第一一四號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ貴縣官房主事ヨリ內務大臣秘書官ニ問合ノ次第有之候處警部補在職中死亡ノ場合ニ於テハ明治四十三年三月勅令第一二六號ニ依リ巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ準用シ弔祭料ヲ給與スヘク判任官俸給令ニ依ル死亡賜金ハ之ヲ給スルノ限リニ非スト被存候條御了知相成度

奈良縣知事ヨリ內務大臣秘書官宛

●警察及監獄傭員ノ弔祭扶助療治料ノ件

（明治二十年九月七日 内務省訓令第四十二號）

警察及監獄傭員ニシテ職務上死傷セシモノノ弔祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照準支給スヘシ但警察傭ハ警察費監獄傭ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

●官吏職務上傷痍療治料給與

（明治二十五年九月二十七日 勅令第八十號）

官吏ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケタル者ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外療治料實費ヲ以テ給與ス但府縣ノ收入ヨリ給料ヲ受クル者ノ療治料ハ其府縣ノ負擔トス

●官吏療治料給與ニ關スル件

（明治二十五年十月 房甲第三三號內務書記官通牒）

官吏療治料給與ニ關スル件ニ付山梨縣ニ對シ別記ノ通指令相成候ニ付依命爲御心得此段及通牒候也

山梨縣伺（明治二十五年九月二十八日）

本年九月勅令第八十號ニ依リ療治料ヲ給與スヘキ者ハ令文ニ在リテハ官吏ト有之候得共雇員ノ如キモ其職務ノ爲メ受ケタル傷痍ハ官費ニ依リ療治セシムルコト當然ノ義ト存セラレ候就テハ當時官務ニ從事セシムル見込ヲ以テ雇用スル雇員ニシテ規定ノ場合ニ遭遇シタル時ハ療治料ヲ給スル義ニ候哉右ハ目下縣歲出豫算編製ニ關シ切迫ノ必要有之候間至急何分ノ御指示相成度此段相伺候也

指令（明治二十五年十月六日）

本年九月二十八日付第五一八號伺官吏療治料給與ニ關スル件伺ノ通

●官吏療治料ニ關スル件

（大正十三年六月十六日 十三會第五〇四號）

右件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通リ回答相成候旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條爲念及移牒候也

甲號

司法省會甲第四四九三號

大正十三年十二月二十日

大藏省主計局長殿

司法大臣官房會計課長

官吏療治料ニ關スル件

試補及囑託員ニシテ其ノ職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケタル者アル場合ニ於テハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ實費ヲ以テ療治料ヲ支給シ差支無之候哉右ハ差掛リタル件有之候ニ付至急御回答相成度及照會候也

追テ本文ノ件支出差支ナキ儀ニ有之候ハハ官吏療治料ノ費途ヨリ支出致度ト存候

乙號

客年十二月二十日附會甲第四四九三號ヲ以テ試補及囑託員ニシテ職務上傷痍ヲ受ケタル場合療治料支給方ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ前例モ有之候條官吏ノ事務ニ從事スル者ニハ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ療治料ヲ支給シ差支無之省議ヲ經此段及御回答候也

大正十三年六月六日

司法大臣官房會計課長殿

大藏省主計局長

●官吏療治料ニ關スル件

（大正十四年五月六日 十四會第二九二號）

內務部長ヨリ警察部長宛

右件ニ付客年六月十六日十三會第五〇四號ヲ以テ及移牒置候處右ハ獨リ試補ニ限ラス廣ク待遇官吏ニ付テモ明治二十五年勅令第八十號ニ準シ取扱相成可然義ニ有之候旨其ノ筋ヨリ通牒有之候條爲念及移牒候

●傳染病豫防救治吏員手當

沿革 明三三年勅第一四〇號改正

（明治二十八年六月七日勅令第七十一號）

傳染病豫防救治ニ從事スル官吏准官吏及傭員ニシテ專ラ該病者又ハ病毒汚染ノ虞アル物品ニ接近スル者ニハ各其ノ俸給又ハ給料月額三分一以內ノ月手當ヲ給スルコトヲ得

但府縣ノ收入ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル官吏准官吏及傭員ニシテ本官職ノ資格ヲ以テ從事スル者ニ給スル手當竝ニ傳染病豫防法第十八條ニ依リ檢疫委員ト爲ル者ニ給スル手當ハ府縣ノ負擔トス

●官吏公務上傳染病豫防等ニ從事シ感染又ハ死亡ノ者手當金給與方

沿革 明三三年四月勅第一四二號改正

（明治十九年七月十三日閣令第二十三號）

各官廳

官吏公務ニ依リ傳染病豫防救治ニ從事シ爲メニ感染シ又ハ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手當金ヲ給ス

一 手當金ヲ分チ弔祭料、救助料、療治料ノ三種トス

一 救助料ハ感染者又ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス

一 療治料ハ感染者治癒看護ノ雜費トシテ之ヲ給ス

一 弔祭料ハ年俸十二分ノ一若クハ月俸一箇月分若クハ日給三十日分ヲ給ス但官ヨリ埋葬スル者ハ之ヲ給セス

一 救助料ヲ分テ二等トス

一等 俸給五箇月分日給百五十日分

二等 俸給三箇月分日給九十日分

一 感染者死亡シタルトキハ一等救助料ヲ給シ死亡セサルトキハ二等救助料ヲ給ス

一 療治料ハ高等官ニハ一日三圓判任官ニハ一日二圓ヲ給ス

●傳染病豫防ニ從事シ感染又ハ死亡シタル者ヘ手當ノ件

（明治十九年八月內務省訓令第五九八號）

傳染病豫防救治ニ從事シ爲ニ感染シ又ハ死亡シタル者等ヘ手當給與ノ儀ハ左ノ手續ニ依リ支給スヘシ

一 官吏準官吏ハ本年七月第二十三號閣令ニ依リ廳府縣ノ定額經費內ヨリ支給シ直ニ內務大臣ヘ報告スヘシ但高等官ニ係ルモノハ其都度具申スヘシ

一 該閣令ハ恩給令及一時賜金ノ法ニ拘ラス特ニ其手當金ヲ支給スルモノトス

一 巡查看守ハ明治十五年七月第四十一號公達巡查看守給助例ニ依リ巡查ハ警察費ヨリ看守ハ監獄費ヨリ支給シ其感染死ニ至ラサル者ハ該閣令ニ依リ二等救助料ヲ支給シ直ニ內務大臣ヘ報告スヘシ但該給助例實施以前ニ在テ未タ支給セサル者ハ明治八年第三號公達ニ依リ巡查ハ警察費看守ハ監獄費ヨリ支給スヘシ

一 該閣令以前ニ係ル者ニシテ給與未濟ノモノハ此手續ニ據リ具申スヘシ

一 傭醫師檢疫掛看護夫人夫等ハ總テ明治十年十二月第八十九號公達ニヨリ地方稅中衞生若ハ身分所屬ノ地方費ヨリ適宜支給スヘシ

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件

（明治三十三年三月七日法律第三十號）

第一條 判任以上ノ官吏ニ非スシテ傳染病ノ豫防救治ニ從事スル者公務ニ因リ病毒ニ感染シ又ハ之ニ原因シテ死亡シタル

トキハ本法ノ規定ニ依リ手當金ヲ給ス

第二條　手當金ハ左ノ四種トス

一　療治料

二　給助料

三　弔祭料

四　遺族扶助料

第三條　病毒ニ感染シタル者ニハ療治料ヲ給ス感染者治癒シタルトキハ給助料ヲ給シ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ弔祭料及遺族扶助料ヲ給ス遺族ナキトキハ葬儀ヲ行フ者ニ弔祭料ヲ給ス

第四條　遺族扶助料ハ死者ノ受ケタル給料ノ金額ニ應シ別表ニ依リ一時之ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ別表ノ範圍内ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

第五條　療治料ハ命令ノ定ムル區別ニ依リ一日三圓以内ヲ給ス

給助料ハ遺族扶助料ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ本屬長官適宜之ヲ給ス

弔祭料ハ月給一箇月分又ハ日給三十日分ニ相當スル金額ヲ給ス

第六條　手當金ハ國庫支辨ノ事務ニ從事スル者ニ在リテハ府縣ノ負擔トス

第七條　地方長官ハ市區市町村ニ指示シ本法ノ規定ニ準シ其ノ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金支給ニ關スル規定ヲ設ケシムルコトヲ得

表別

等級	月給	遺族扶助料
一等	二百圓以上	千圓
二等	百六十圓以上	九百圓
三等	百三十圓以上	八百圓
四等	百圓以上	七百圓
五等	八十圓以上	六百圓
六等	七十圓以上	五百圓
七等	六十圓以上	四百五十圓
八等	五十圓以上	四百圓
九等	四十圓以上	三百五十圓
十等	三十圓以上	三百圓
十一等	二十圓以上	二百五十圓
十二等	十圓以上	二百圓
十三等	未滿	百圓

●傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ療治料ニ關スル件

（明治三十三年四月十一日　勅令第百四十一號）

明治三十三年法律第三十號第五條ノ療治料ハ給料ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給料額ニ依リ同法別表ノ等級ニ照シ一等乃至四等ノ者ニハ一日三圓五等乃至十二等ノ者ニハ一日二圓十三等ノ者ニハ一日一圓ヲ給ス其ノ給料ヲ受ケサル者ニ在リテハ一日三圓以內ニ於テ本屬長官適宜之ヲ給ス

●傳染病感染者等給與ニ關スル件

（明治三十三年四月　秘甲第一〇九號）

內務省警保監獄兩局長通牒

今般法律第三十號ヲ以テ傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ感染及死亡手當支給之件公布相成候處右法律ハ巡査看守ニ對シテハ適用セラレサル義ニ候條巡査看守ニシテ本文該當ノ場合ニ於テハ從前之通巡査看守給助例及明治十九年閣令第二十三號ニ依リ手當金支給方御取計有之度依命此段及通牒候也

●弔祭料及扶助料支給方ノ件

（大正二年四月七日　警島第九號ノ內）

明治十五年太政官達第六七號ニ依ル本件取扱方ニ關シ別紙寫シ通リ回答候條御參考迄及通知候也

弔祭料及扶助料支給方ニ關シ回答ノ件

本件ニ關シ客月十八日付發會第八三號ヲ以テ會計課長宛御照會ノ處左記ノ通リ被存候條御了知相成度右ハ當局主管ノ事項ニ付ホ官ヨリ及回答候

（大正二年三月二十六日　內務省警第一四四一號）

一　明治十五年太政官達第六十七號ニ依ル遺族扶助料ハ正式ノ妻ニ支給スヘキモノニシテ御申越ノ如キ內緣ノ妻ハ遺族ト認ムヘカラサルヲ以テ乍遺憾給與スヘキモノニ無之候

一　弔祭料ハ同內緣ノ妻ニ於テハ故舊ト認メ同人ニ支給スルハ妨ケ無之候

●巡査弔祭料算定ノ勤續年數ノ計算ニ關スル件

（昭和二年五月三十一日　內務省沖警第二號）

本件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答致シ候條御了知相成度候

甲號

巡査弔祭料算定ノ勤續年數ノ計算ニ關シ左ノ通リ疑義相生シ差掛リタル事業モ有之候ニ付御意見承知致度候條至急何分ノ御回示相煩度此段及照會候也

記

大正八年十二月巡査ヲ拜命シ引續同九年三月ヨリ同十五年八月迄恩給法第三十八條所定ノ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ在勤中同地域ニ於テ死亡シタル者ニ對スル弔祭料算定ノ勤續手數ハ巡査看守退隱料及遺族扶助法廢止ニヨリ恩給法施行令第十五條ニ依ル加算年ハ包含セサルモノト解シ取扱フヘキヤ

（昭和二年二月四日　警第二六七號）

沖繩縣知事ヨリ警保局長宛

乙號

警保局長回答

本件ニ關シ二月四日警第二六七號付御照會相成候處巡査看守療治料給助料及弔祭料給與令ノ規定ニ依ル弔祭料給與ノ其本トナルヘキ勤續年數ノ計算ニ關シテハ巡査看守退隱料及遺族扶助料法ノ例ニ依ルヘキ規定ナルモ巡査看守退隱料及遺族扶

助料法ハ廢止セラレ現行恩給法之ニ代リ制定セラレタルモノナルヲ以テ有勤續年數ノ計算ハ恩給法ノ例ニ依ルヘキモノト解セラレ候從テ恩給法第三十八條所定ノ邊陬又ハ不健康ノ地域ニ在勤セシ者死亡シタルトキハ同施行令第十五條ニ依リ加算シタル勤續年數ニ依リ弔祭料ヲ給與相成可然ト存候

右經伺ノ上

●岐阜縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料死亡給與金給與規則

（大正十二年九月二十九日 岐阜縣令第三十三號）

沿革 大正一三年一二月縣令第九一號、第九三號、昭和二年一月第二號改正

岐阜縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料死亡給與金給與規則左ノ通定ム

岐阜縣有給縣吏員及職員退隱料退職給與金遺族扶助料死亡給與金給與規則

第一章 總則

第一條 有給縣吏員及職員竝其ノ遺族ニハ本則ノ定ムル所ニ依リ退隱料增加退隱料退職給與金遺族扶助料一時扶助料又ハ死亡給與金ヲ給ス

第二條 退隱料增加退隱料及遺族扶助料ハ年金トシ退職給與金一時扶助料及死亡給與金ハ一時金トス

第三條 退隱料增加退隱料遺族扶助料ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條 退隱料增加退隱料遺族扶助料ノ年額竝退職給與金一時扶助料及死亡給與金ノ額ノ四位未滿ハ之ヲ四位ニ滿タシム

第五條 退隱料增加退隱料及遺族扶助料ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ其ノ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第六條 有給縣吏員又ハ職員若ハ其ノ遺族ハ互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ退隱料增加退隱料退職給與金又ハ遺族扶助料一時扶助料ヲ併給セラルヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 退隱料增加退隱料遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

一 死亡シタルトキ

二 死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ

第八條 退隱料又ハ增加退隱料若ハ退職給與金ノ給與ヲ受クヘキ者死亡シタルトキハ其ノ生存中ニ給與ヲ受ケサリシモノヲ之ヲ其ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス前項ノ遺族又ハ相續人ニ關シテハ大正十二年八月勅令第三百六十七號恩給法施行令（以下單ニ恩給法施行令ト稱ス）第一條及第二條ノ規定ニ依ル

第九條 退隱料增加退隱料退職給與金遺族扶助料一時扶助料及死亡給與金ヲ受クルノ權利ハ知事之ヲ裁定ス

第十條 特別會計所屬ノ有給縣吏員及職員ニ給スル退職給與金又ハ死亡給與金ハ其ノ所屬經濟ニ於テ支辨スルモノトス

第二章 吏員職員ノ退隱料增加退隱料退職給與金

第十一條 本則ニ於テ有給縣吏員ト稱スルハ府縣制第七十五條及靈絲業法第二十二條ニ依リ設ケラレタル者ヲ謂ヒ職員トハ本縣經濟ヨリ給料ヲ受クル左ニ掲クル者ヲ謂フ但シ無給日給手當ノ支給ヲ受クル者及囑託心得ノ者ヲ除ク

社會教育主事　體育主事　養老公園主事

警察技師　警察技手

縣參事會書記

穀物檢查所檢查員　穀物檢查員補　木炭檢查所檢查員

土木工手

農業手
蠶業取締書記
縣病院長　同副院長　同部長　同副部長　同幹事　同主任　同調劑局長　同醫院　同技手　同
調劑手　同書記
縣娼妓病院長　同醫師　同調劑手　同書記

第十二條　有給縣吏員又ハ職員ノ在職年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル
退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ退職給與金ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ退職給與金ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セス
退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第十三條　左ニ掲クル年月數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス
一　權利消滅シタル退隱料ノ基礎ト爲リタル在職年
二　第二十條ノ規定ニ依リ退隱料又ハ退隱給與金ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年月數
三　在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年月數
四　不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數

第十四條　有給縣吏員又ハ職員退職ノ當日又ハ翌日有給縣吏員又ハ職員ニ就職シタルトキハ之ヲ勤續ト看做ス

第十五條　有給縣吏員又ハ職員二以上ノ職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一職ノ在職年ニ依リ各職ノ給料額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ給料額トス

第十六條　有給縣吏員及職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ其ノ在職年數ニ拘ラス之ニ退隱料及增加退隱料ヲ給ス
有給縣吏員又ハ職員公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキハ新ニ退隱料及增加退隱料ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加退隱料ヲ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加退隱料ニ改定ス
前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖知事ニ於テ不具癈疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト認メタルトキハ之ニ相當ノ退隱料及增加退隱料ヲ給シ又ハ改定ス公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾トナルモ有給縣吏員又ハ職員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定スル退隱料及增加退隱料ヲ給セス

第十七條　有給縣吏員又ハ職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス
一　公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
二　吏員職員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ知事ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト認メタルトキ

第十八條　前條第一號ノ流行病ノ種類ハ恩給法施行令第二十二條ノ規定ノ例ニ依ル

第十九條　知事ハ增加退隱料ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癈疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキヲ認メタルトキハ之ニ五年間ノ有限ノ退隱料及增加退隱料ヲ給スルコトヲ得
前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷痍疾病回復セサル者ハ知事ニ再調査ヲ請求スルコトヲ得再調査ノ結果退隱料及增加退隱料ヲ給スヘキモノト認メタルトキハ之ニ相當ノ退隱料及增加退隱料ヲ給ス

第二十條　有給縣吏員又ハ職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付退隱料又ハ退職給與金ヲ受クルノ資格ヲ失フ
一　懲戒處分ニ因リ解職シタルトキ
二　在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以

上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十一條 有給縣吏員又ハ職員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ有給縣吏員又ハ職員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ退隱料增加退隱料又ハ退職給與金ヲ給セス有給縣吏員又ハ職員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日有給吏員又ハ職員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルルモノニ付テハ後ノ有給縣吏員又ハ職員ヲ退職スルニ非サレハ之ニ退隱料增加退隱料又ハ退職給與金ヲ給セス

第二十二條 退隱料ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ退隱料又ハ增加退隱料ヲ改定ス

一 再就職後在職引續キ一年以上ニシテ退職シタルトキ

二 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癈疾ト爲リ退職シタルトキ

三 再就職後公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年內ニ之カ爲不具癈疾ト爲リ又ハ其ノ程度增進シタル場合ニ於テ其ノ期間內ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ退隱料ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加退隱料ヲ改定スルニハ前後ノ傷痍又ハ疾病ノ程度トシ別表ニ依リ不具癈疾ノ程度ニ相應スル增加退隱料年額ヲ定ム

第二十四條 前二條ノ規定ニ依リ退隱料又ハ增加退隱料ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ退隱料又ハ增加退隱料年額ヨリ少キトキハ從前ノ年額ヲ以テ改定退隱料又ハ增加退隱料ノ年額トス

第二十五條 退隱料ハ之ヲ受クル者又ハ之ヲ受クヘキ事由ノ發生シタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

一 有給縣吏員又ハ職員トシテ就職シ給料ヲ受クルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄

二 恩給法ノ公務員又ハ準公務員ニ就職シ本縣經濟ヨリ俸給又ハ給料ヲ受クル者ハ其ノ就職ノ月ノ翌月ヨリ本縣經濟ヨリ俸給又ハ給料ヲ受ケサルニ至リタル月ノ前月迄

三 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ退隱料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項第三號ノ規定ハ增加退隱料ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 有給縣吏員又ハ職員ハ其ノ給料ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ縣ニ納付スヘシ

第二十七條 有給縣吏員又ハ職員在職年十五年以上ニシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ退隱料ヲ給ス

前項ノ退隱料年額ハ在職十五年以上十六年未滿ニ對シ退職當時ノ給料年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ給料年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

在職四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ退隱料年額ハ之ヲ在職四十年トシテ計算ス

第二十八條 有給縣吏員又ハ職員ノ增加退隱料ノ年額ハ退職當時ノ給料及不具癈疾ノ程度ニ依リ定メタル別表ノ金額トス

前項ノ給料及不具癈疾ノ程度ハ恩給法施行令第二十四條ノ規定ノ例ニ依ル

第二十九條 有給縣吏員又ハ職員在職年一年以上十五年未滿ニシテ失格原因ナクシテ退職シ退隱料ヲ給スヘカラサルトキハ之ニ退職給與金ヲ給ス

前項ノ退職給與金ノ金額ハ退職當時ノ給料月額ニ相當スル金額ニ退職ニ引續キタル在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

第三十條 本則ニ於テ遺族トハ有給縣吏員又ハ職員ノ配偶者、子、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ有給縣吏員又ハ職員ノ死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在ルモノヲ謂フ

有給縣吏員又ハ職員ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ死亡ノ當時其ノ戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

第三十一條 有給縣吏員又ハ職員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ遺族扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ退隱料ヲ給スヘキトキ

二 退隱料ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ有給縣吏員又ハ職員ヲ破相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第三十二條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限リ之ニ遺族扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限リ之ニ遺族扶助料ヲ給ス

養子ハ有給縣吏員又ハ職員ノ家督相續人タルトキ又ハ有給縣吏員若ハ職員カ家督相續人ニシテ之ヲ戶主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ遺族扶助料ヲ給ス前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第三十三條 遺族扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 有給縣吏員又ハ職員公務ニ因ル傷痍疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ退隱料年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

二 其ノ他ノ場合ニ於テハ有給縣吏員又ハ職員ニ給セラルル退隱料年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第三十四條 有給縣吏員又ハ職員ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ有給縣吏員又ハ職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ

二 有給縣吏員又ハ職員女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三 父、母、祖父又ハ祖母婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ

第三十五條 遺族扶助料ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄遺族扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ遺族扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十六條 遺族扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ知事ハ所在不明中遺族扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 前二條ノ遺族扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中遺族扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第三十八條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ有給縣吏員又ハ職員ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入リタルトキハ此限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

第三十九條 有給縣吏員又ハ職員タル者第三十一條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ遺族扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癈疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス遺族扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第四十條 有給縣吏員又ハ職員在職一年以上十五年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

第三十一條第三十二條ノ規定ハ前項ノ遺族ノ範圍資格及順位ニ付之ヲ準用ス

一時扶助料ノ金額ハ有給縣吏員又ハ職員ノ死亡ノ當時ノ給料月額ニ相當スル金額ニ其ノ有給縣吏員又ハ職員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第四十一條 有給縣吏員又ハ職員在職中死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ年俸ノ者ハ在職最終年俸ノ三分ノ一月俸ノ者ハ在職最終月俸四箇月ニ相當スル死亡給與金ヲ第三十條ニ規定スル順位ニ依リ之ヲ給ス子數人アル場合ニ於テハ家督相續ノ順位ニ依ル

死亡給與金ハ之ヲ遺族扶助料又ハ一時扶助料ト併給スルコトヲ得

附 則

第四十二條 本則ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 明治四十三年一月岐阜縣令第二號有給縣吏員及吏員職員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則及大正三年三月岐阜縣令第三十五號有給縣吏員及吏員職員死亡給與金ノ則ハ之ヲ廢止ス

第四十四條 本則施行前給與事由ノ生シタル退隱料增加退隱料退職給與金遺族扶助料給與ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル退隱料增加退隱料遺族扶助料ハ之ヲ本則ニ依リ受ケ又ハ受クヘキモノト看做シ本則施行ノ日ヨリ本則所定ノ年金ヲ給ス

第四十五條 第五條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル退隱料增加退隱料遺族扶助料ヲ受クヘキ權利ニシテ本則施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第四十六條 第八條ノ規定ハ本則施行前給與ノ事由ノ生シタル退隱料增加退隱料退職給與金遺族扶助料一時扶助料死亡給與金ニ付本則施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第四十七條 明治四十三年一月岐阜縣令第二號ノ有給縣吏員及吏員職員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則ノ吏員職員ノ本則施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニハ從前ノ規定ニ依ル但シ本則施行ノ際現ニ恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員ノ職ニ在ル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職年月數ニ限リ之ヲ通算セス

從前ヨリ引續キ本則施行ノ際現ニ在職スル有給縣吏員又ハ職員ハ之ヲ勤續ト看做シ在職年月數ハ之ヲ通算ス

第四十八條 從前ヨリ引續キ本則施行ノ際現ニ恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員ノ職ニ在ル者（本條中以下單ニ其ノ待遇職員ト稱ス）カ恩給法ノ定ムル失格原因ナクシテ本縣經濟ヨリ俸給ヲ受ケサルニ至リタルトキハ當該職員制施行ノ前日又ハ其ノ待遇職員ノ任命ノ前日迄ニ於ケル從前ノ規定ニ依ル在職年數（本條中以下單ニ其ノ在職年數ト稱ス）ニ對スル退隱料又ハ退職給與金ニ付テハ左ノ各號ノ一ニ依リ之ヲ給ス

一 其ノ以前ノ在職年數カ從前ノ規定ニ依リ退隱料支給ノ年限ニ達セル者ニ付テハ當該職員制施行ノ前日又ハ其ノ待遇職員ニ任命ノ前日退職シタルモノト看做シ大正十二年九月三十日現在ノ俸給平額ヲ基礎トシテ退隱料ヲ給ス

二 其ノ待遇職員ノ在職年數ト其ノ以前ノ在職年數トヲ通算シテ本則施行ノ前日迄ニ十五年以上ナルトキ又ハ本則施行後十五年以上トナルトキハ大正十二年九月三十日現在ノ俸給平額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額ニ其ノ以前ノ在職年數ヲ乘シ十五ヲ以テ除シタル金額ヲ退隱料ト看做シ之ヲ給ス

三 其ノ待遇職員ノ在職年數ト其ノ以前ノ在職年數トヲ通算シテ三年以上十五年未滿ナルトキハ大正十二年九月三十日

現在ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ以前ノ在職ノ年數ヲ乘シタル金額ヲ退職給與金ト看做シ之ヲ給ス但シ其ノ以前ノ在職年數中前ニ退職給與金ノ基礎ト爲リタル在職年ノ年月數ハ合算セス

前項通算ノ場合ニ於テ二職以上ヲ併有シ又ハ併有セシ者ハ其ノ重複スル在職年數ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一職ノ在職年ニ依ル

第一項ノ大正十二年九月三十日現在ノ俸給トハ同日二職以上ヲ併有スル者ノ本縣經濟ヨリ受クル俸給給料ヲ總テ合算シタルモノトス

第四十九條　前條第一項第二號ノ規定ニ依リ退隱料ヲ受ケタル者有給縣吏員又ハ職員ニ再就職スルトキハ第二十二條第一項第一號ノ規定ニ拘ラス前後通算シテ十六年以上ニ非ラサレハ退隱料ヲ增加セス

第五十條　明治四十三年一月岐阜縣令第二號有給縣吏員職員退隱料退職給與金遺族扶助料給與規則ノ吏員職員タリシ者カ本則施行前既ニ退職シ本則施行後再就職シタルトキハ本則ニ依ル有給縣吏員又ハ職員カ再就職シタルモノト看做ス

第五十一條　第二十五條第一項第一號及第二號ノ規定ハ從前ヨリ引續キ本則施行ノ際現ニ有給縣吏員又ハ職員若ハ恩給法第二十四條第三號ノ待遇職員ノ職ニ在ル者ニ付之ヲ準用ス

第五十二條　本則施行前死亡シタル者ノ遺族扶助料ニシテ本則施行後轉給セラルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル退隱料ヲ標準トスルノ外本則ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本則施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ遺族扶助料ヲ受クルコトヲ得ル權利ヲ妨クルコトナシ

本則施行前ニ遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セサルニ至リタル者ハ之ヲ受クルノ權利ヲ本則ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本則ニ依リ遺族扶助料ヲ受クルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖モ本則ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ遺族扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本則ニ依リ遺族扶助料ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトナシ

第五十三條　郡ノ退隱料又ハ遺族扶助料ノ支給ニ關スル規則ニ依リ退隱料又ハ遺族扶助料ヲ受クル者郡制廢止ニ依リ本縣經濟ヨリ退隱料又ハ遺族扶助料ノ支給ニ關シ必要ナル事項ハ知事之ヲ定ム

第五十四條　本則施行ニ關シテハ本則ヲ準用ス

別表

公務傷病等記	給料	五千圓以上	參千圓以上	貳千圓以上	千六百圓以上	貳千圓以上	六百六拾圓以上	六百六拾圓未滿
特別項								
公務傷病 第一項		一、九二〇	一、四四〇	九六〇	八六四	七九二	七二〇	
公務傷病 第二項		一、六〇〇	一、二〇〇	八〇〇	七二〇	六六〇	六〇〇	
公務傷病 第三項		一、二八〇	九六〇	六四〇	五七六	五二八	四八〇	
公務傷病 第四項		一、〇二四	七六八	五一二	四六一	四二三	三八四	
公務傷病 第五項		八〇〇	六〇〇	四〇〇	三六〇	三三〇	三〇〇	
公務傷病 第六項		六四〇	四八〇	三二〇	二八八	二六四	二四〇	

備考　特別項ハ第一項ノ金額ニ其ノ十分ノ五以內ヲ加ヘタルモノトス